コダックプロフェッショナル
DCS プロバック 645

ユーザマニュアル

DCS プロバック 645

目次

概要 10
このマニュアルについて 10
はじめに 11
特徴 12
動作環境 13
ポータブルモードの場合 13
Macintosh に接続する場合 13
Windows に接続する場合 14

撮影のワークフロー 15
カメラをコンピュータに接続せずに撮影する場合のワークフロー 16
周辺機器とメディアの準備 17
テスト画像の撮影と評価 18
画像の撮影 19
確認 19
画像の転送 20
画像の編集 21
カメラをコンピュータに接続して撮影する場合の撮影ワークフロー 22
コンピュータへの接続と電源供給 23
ソフトウェアの起動 23
周辺機器とメディアの準備 24
テスト画像の撮影と評価 24
画像の撮影 25
確認 25

目次

画像の編集 25

DCS ソフトウェア 26
付属ソフトウェアの概要 26
コダック プロフェッショナル DCS Capture Studio (DCS Capture Studio) 26
コダック プロフェッショナル DCS Camera Manager (DCS Camera Manager) 27
コダック プロフェッショナル DCS Photo Desk (DCS Photo Desk) 27
コダック プロフェッショナル DCR File Format Module (DCR File Format Module) 28
付属ソフトウェアでの画像編集 29
DCS Capture Studio 30
DCS Photo Desk 32
Adobe Photoshop でのカラー設定 33

DCS 645 について 34
概要 34
背面 34
前面 (カメラ装着面) 34
側面 35
CCD 36
フォーカシングスクリーン 37
IR フィルター 38
アンチエイリアスフィルター 38
IR フィルター / アンチエイリアスフィルターの取り外し 39
フィルターの取り付け 39
液晶カラーモニター 40

目次

液晶カラーモニターの機能 40
液晶カラーモニターのオン / オフ 41
メニューバー 42
メニュー 43
ステータス画面 45
ステータス画面の表示 45
ボタンの機能 46
4-Way スイッチ 46
メニューボタン 46
OK ボタン 46
タグボタン 46
キャンセルボタン 46
液晶カラーモニターとボタン操作に関するクイックガイド 47
ポート 48
シリアルポート 48
電源ポート 48
IEEE 1394 ポート 48
ビデオ出力ポート 48

基本操作 49
はじめに 49
カメラ本体への取り付けとアクセサリの接続 50
カメラ本体への DCS 645 の取り付け 50
カメラ本体からの DCS 645 の取り外し 52
フラッシュ / ストロボの接続 52

目次

画像ファイル形式 53
画像の保存 54
電源 55
AC アダプター 55
バッテリー 56
バッテリーの取り付け 56
バッテリーの取り外し 57
バッテリー状態のチェック 58
バッテリーチャージャー 59
バッテリーの充電 60
コンパクトフラッシュ (CF) カード 61
CF カードの挿入 61
CF カードの取り出し 62
フォルダの選択 63
CF カードの画像にアクセスする 64
CF カードのフォーマット 65
CF カードの画像の復元 (リカバリー機能) 66

各種機能の設定 67
言語の選択 67
日付と時刻の設定 68
プロパティの設定 69
プロパティメニューの表示 69
省電力モードの設定 70
液晶表示時間の設定 70

目次

長時間露光 . . . 71
撮影総数 . . . 72
デフォルトフォルダの設定 . . . 72
ビデオ出力方式の設定 . . . 73
ジョブトラッカー . . . 74
CF カードからジョブトラッカーデータを読み込む . . . 75

コンピュータと接続して使用する . . . 76
はじめに . . . 76
コンピュータへの接続 . . . 77
コンピュータへの接続 . . . 77
電源を入れる . . . 78

ポータブルモードで使用する . . . 79
はじめに . . . 79
電源の供給 . . . 80
AC アダプターの利用 . . . 80
バッテリーについての注意 . . . 80
省電力モード . . . 81

撮影と画像処理 . . . 82
概要 . . . 82
撮影エリア . . . 83
インターバル撮影 . . . 84
インターバル撮影の設定画面 . . . 85

目次

ISO の設定 86
ホワイトバランス 87
ホワイトバランスの設定 87
クリックホワイトバランス 88
長時間露光 92
画像フォーマット変換 93
画像フォーマット変換の設定変更 94

液晶カラーモニター 98
画像のレビュー 98
表示モードの選択 98
表示画像の切り替え 99
1 コマ表示モード 100
ズーム表示モード 100
ヒストグラム表示モード 102
4 コマ表示モード 103
デリートモード 104
ステータスバー 105
ロケーションバー 105
複数画像の削除 106
コントラストの調整 107
オーバー露光表示 107
画像にタグを付ける 108

メンテナンス 109

目次

クリーニング 109
DCS 645 のクリーニング 109
IR/ アンチエイリアスフィルターのクリーニング 110
保管方法 110
ファームウェア 112
ファームウェアバージョンの確認 112
ファームウェアの更新 113
リサイクル 114

仕様 115

外部モニターの使用 116
外部モニターとの接続 116
DCS645 での設定 117
外部モニター表示の停止 117
画像の切り替え 117
電波障害についての注意 118
Japan 118
Taiwan 118
European Union (EU) 119
USA 119

使用上の注意 120
警告 120
注意 120

目次

用語集 122
保証とアフターサービス 124

このマニュアルについて

このマニュアルでは、次のデジタルカメラバックに利用できる機能について説明します。

コダック プロフェッショナル DCS プロバック 645M (DCS 645M)

コダック プロフェッショナル DCS プロバック 645C (DCS 645C)

これらのカメラバックは、次のカメラ本体に取り付けることができます。

DCS 645M	マミヤ 645AF マミヤ 645AFD
DCS 645C	CONTAX 645

このマニュアルでは、特定のモデルを指す場合以外は、デジタルカメラバックのことを DCS 645 と呼んでいます。

「カメラ」という語は、DCS 645 を取り付けるカメラ本体を指します。

このマニュアルでは、次の機能については説明していません。

- ✔ マミヤ 645AF、マミヤ 645AFD、CONTAX 645 のカメラ本体の持つ機能。マミヤまたは CONTAX のカメラ本体に付属するマニュアルをご参照ください。
- ✔ 同梱ソフトウェアの機能 (簡単な説明は記載してあります (26 ページ))。詳しい機能や操作に関しましては、ソフトウェアのオンラインヘルプをご参照ください。

このマニュアルでは、次のいずれかをクリックすると、関連するトピックに進むことができます。

- ✔ 目次または索引の項目
- ✔ 青色の下線付きページ番号
- ✔ 各ページの下部にある「目次」、「戻る」、「次」、「索引」のボタン

はじめに

DCS 645 をお買い求めいただきありがとうございます。

DCS 645 は、カメラ本体のフィルムマガジンの替わりに装着してデジタル撮影を行う、デジタルカメラバックです。このため一台のカメラ本体を、デジタル撮影とフィルム撮影の両方に使用することができます。

DCS 645 はポータブルモード (コンピュータに接続しないで撮影するモード) での撮影も、またコンピュータに接続した状態での撮影も可能です。

特徴

- ✔ 1660 万画素の CCD(4080 x 4080 画素) を搭載
- ✔ スタンドアローンの場合、1 画像 / 1.8 秒の速度で、最大 8 コマ (カメラ本体、画像の内容やコンパクトフラッシュカードの種類により変わります) の連写が可能
- ✔ ISO 100 - 400 の設定が可能
- ✔ 着脱可能な IR フィルター(付属)、アンチエイリアスフィルター (別売)
- ✔ 液晶カラーモニターで、画像のサムネイルとプロパティ、行なった設定が確認可能
- ✔ ビデオケーブル(別売)により外部モニターで画像の閲覧が可能
- ✔ 電源として
  付属の AC アダプターまたは充電式バッテリーパックを使用
- ✔ Type II コンパクトフラッシュカード用のスロットを搭載
- ✔ カードビジーランプを搭載
- ✔ 400 Mbps IEEE 1394 インターフェースを搭載

動作環境

DCS 645 をお使いいただくには、DCS 645 の付属品、カメラ本体およびそのアクセサリに加えて、以下のものが必要です。

ポータブルモードの場合

- ✔ コンパクトフラッシュカード
- ✔ カードリーダー (撮影後、カード内に保存された画像ファイルをコンピュータへ取り込むために使用)

☛ 撮影した画像を処理するためには次の条件を満たしたコンピュータが必要となります。

Macintosh に接続する場合

- ✔ Power Macintosh G3 または G4、マルチプロセッサ搭載の Power Macintosh G4、POWERBOOK G3 シリーズ、または iMac DV
- ✔ Mac OS 9.0 以降 (OS X は除く)
- ✔ 512 MB 以上の RAM(1GB を推奨)
- ✔ お使いの Macintosh に IEEE 1394 ポートがない場合は、OHCI 準拠の IEEE 1394 アダプターが必要
- ✔ IEEE 1394 ケーブル
- ✔ コダック プロフェッショナル DCS Capture Studio またはコダック プロファッショナル DCS Camera Manager および DCS Photo Desk

概要

Windows に接続する場合

- ✔ 266 MHz Pentium II 以上のプロセッサ
- ✔ 200 MB 以上の空きディスク領域
- ✔ 次のいずれかのオペレーティングシステム : Windows 98 Second Edition、Windows Me、Windows NT 4.0、または Windows 2000 (Windows 2000 推奨)
- ✔ お使いのWindowsにIEEE 1394ポートがない場合は、OHCI 準拠の IEEE 1394 アダプターが必要
- ✔ IEEE 1394 ケーブル
- ✔ 256 MB 以上の RAM
- ✔ コダック プロフェッショナル DCS Camera Manager および DCS Photo Desk

撮影のワークフロー

本項では、DCS 645 で撮影した画像の管理に役立つ 2 つの一般的なワークフローを説明します。

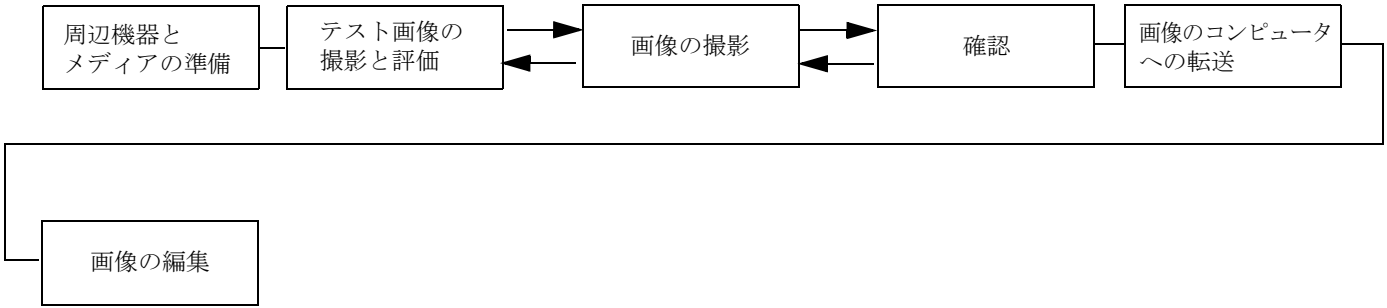
ワークフローは、スタジオでの撮影セッションごとに、また現場でのさまざまな撮影ごとに異なります。

すべての状況にそのまま適用できるワークフローは存在しませんが、ここに示すワークフローは必ず参考になるはずです。

次のワークフローについて記載してあります。

- ✔ カメラをコンピュータに接続せずに撮影する場合のワークフロー
- ✔ カメラをコンピュータに接続して撮影する場合のワークフロー

カメラをコンピュータに接続せずに撮影する場合のワークフロー



周辺機器とメディアの準備

前もって機器を準備することで、時間の節約になり、画像の品質の向上につながります。

- ✔ 定期的に(たとえば毎週)お使いのモニターやプリンターを調整します。
- ✔ DCS 645 バッテリーを充電します (59 ページ)。バッテリーを取り付けます (56 ページ)。
- ✔ 日時を設定します (67 ページ)。
- ✔ CF カードを何回か撮影に使用した場合、カードの全容量を使用するため、また DCS 645 のカードリカバリー機能 (65 ページ) が働くように DCS 645 でカードをフォーマットする必要があります。
- ✔ 使用する予定の CF カード (61 ページ) を挿入して、十分な空き容量があるかどうかをステータス画面 (45 ページ) で確認します。
- ✔ DCS 645 で作成されるフォルダには、FOLDER1、FOLDER2 などの名前が付けられます。このため、後に画像を編集したり、閲覧する際に、簡単に目的の画像を見つけることができように、撮影する画像に関連した名前のフォルダを作成しておくことをお勧めします。CF カードをカードリーダーに挿入し、コンピュータ上でカード内にわかりやすい名前を付けたフォルダを作成します。
- ✔ ホワイトバランスを設定します (87 ページ)。

  クリックホワイトバランス (88 ページ) を使用して、カメラ上でホワイトバランスを設定します。マクベスカラーチャート、グレーカード、ホワイトカード、または中間色の領域を写し込んだ画像を選択し、クリックホワイトバランスによる調整を行こないます。

  付属のソフトウェアでホワイトバランスを設定するには、マクベスカラーチャート、グレーカード、またはホワイトカードを写し込んだ画像を用意し、後で付属のソフトウェアを使用して調整します。
- ✔ ISO を設定します (86 ページ)。
- ✔ 画像に適用するジョブトラッカーデータを設定します (74 ページ)。

テスト画像の撮影と評価

撮影を始める前や撮影中に、ライティングやカメラの設定が適切かを確認するために、画像を撮影して評価する必要があります。

画像属性	DCS 645 ツール	推奨する評価および調整手順
露出	液晶カラーモニター (40 ページ) に表示される画像	画像を表示し、ツールが提供する情報を解釈します。カメラ設定 (絞り値、シャッタースピード、ISO) やライティングを調整します。必要であれば、撮影し直します。
	画像全体についての露出情報を提供するヒストグラム表示モード (102 ページ)	
	液晶カラーモニター上の十字ポインタにより、ピクセル単位で輝度レベルを表示。(101 ページ)	
フォーカス	ズーム表示モード (100 ページ)	1:1 のズーム表示で画像を表示して、高コントラストの部分 (たとえば、目など) のシャープネスとエッジの定義を評価します。レンズのフォーカスの調整や被写界深度の確認や調整を行います。
色	クリックホワイトバランス (88 ページ) で、ホワイトバランスの調整を行い、その設定を撮影画像に適応することができます。	ライティングの状態が変わった場合は、クリックホワイトバランスを再度行います。
撮影対象と構成	液晶カラーモニターに表示される画像	目が閉じているなどの細かいところや不要な部分を確認します。必要であれば、撮影し直します。
	ズーム表示モード	

画像の撮影

DCS 645 での設定

- ✔ 撮影した画像を入れるフォルダを選択します。
- ✔ JPEG 画像または TIFF 画像が必要な場合は、JPEG 画像または TIFF 画像を生成する設定を有効にします (93 ページ)。必要に応じて、画像フォーマット変換の設定 (94 ページ) を変更します。JPEG 画像や TIFF 画像を作成しても、DCR 画像を保存しておくことをお勧めします。DCR 画像をネガとみなしてください。

確認

ライティングや構成などの条件は場所によって変化します (たとえば、花嫁の自宅、教会、披露宴の会場など)。画像の品質を確認するために、各現場でテスト画像を評価し (18 ページ)、最高の画像品質が得られるように必要に応じて調整します。

お客様に現場で画像をプレビューしていただくこともできます。

次のいずれかの方法で画像を確認します。

- ✔ 液晶カラーモニターでの画像表示 (98 ページ)
- ✔ 外部モニターでの画像表示(116ページ) (外部モニター使用時には、液晶カラーモニターはオフになります。)
- ✔ CF カードを DCS 645 から取り出して、カードリーダーもしくはコンピュータのカードスロットに差し込み、付属のソフトウェアを起動させます。付属のソフトウェア (DCS Capture Studio または DCS Photo Desk) による画像表示

画像の転送

撮影が終了したら、CF カードをお使いのコンピュータに接続されたカードリーダーに挿入します。付属のソフトウェアのいずれかを使用して画像を開いたり、編集、転送、コピー、アーカイブ、保存を行ったり (26 ページ)、あるいは E メール等で画像を現像所に送ったりすることができます。

- ✔ コンピュータのハードディスクにフォルダを作成し、撮影した画像を保存します。必要なときに画像を簡単に見つけることができるように、フォルダには撮影画像に関連した名前を付けることをお勧めします。
- ✔ 常にDCR画像をCDやZipなどにバックアップするようにしてください。

画像の編集

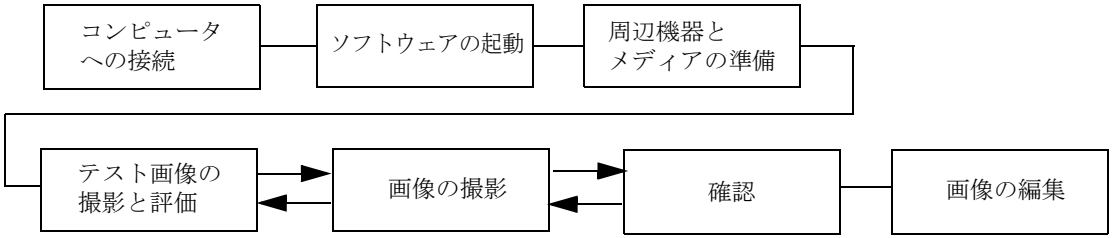
いくつかのソフトウェアがソフトウェア CD に収録されています。このマニュアルには、各ソフトウェアの簡単な説明が記載されています。

次の表に、必要な編集機能や経験に応じて使用をお勧めする編集アプリケーション示します。

ソフトウェアの紹介

ソフトウェア	詳細	難易度
DCR File Format Module(28 ページ) (Adobe Photoshop のプラグイン)	Adobe Photoshop で DCR 画像を直接開くことができます。 ☛ DCR File Format Module で DCR 画像を編集することはできません。	最も簡単に操作できます。
DCS Camera Manager(27 ページ) と DCS Photo Desk(27 ページ)	DCS Camera Manager では、コンピュータに接続したカメラの設定や撮影を行うことができます。DCS Photo Desk は、簡単に使うことができる画像編集ツールが備わっており、画像を JPEG、TIFF 形式で保存することができます。	一連の作業を簡単に行うことができます。
DCS Capture Studio (Macintosh 版のみ) (26 ページ)	撮影からファイルの書き出しまでの一連のフローを網羅しています。多数の編集ツール、カラーマネージメントツールが備わっています。	高度な技術、知識が必要となります。

カメラをコンピュータに接続して撮影する場合の撮影ワークフロー



コンピュータへの接続と電源供給

DCS 645 をコンピュータに接続します (77 ページ)。

電源として付属の AC アダプター (55 ページ) を使用します。バッテリーを使用することもできます (56 ページ) が、AC アダプターのほうが電源供給の限度がありません。

ソフトウェアの起動

DCS 645 で撮影した画像を取り込むために、以下の付属ソフトウェアのいずれかを起動します。

Windows

- ✔ コダック プロフェッショナル DCS Camera Manager(27 ページ)

Macintosh

- ✔ コダック プロフェッショナル DCS Camera Manager

  または

- ✔ コダック プロフェッショナル DCS Capture Studio (30 ページ)

☛ DCS Camera Manager を使用する場合は、画像の閲覧や編集のためにコダック プロフェッショナル DCS Photo Desk を使用することができます。

周辺機器とメディアの準備

撮影を成功させるために、以下の準備を行います。

- ✔ 定期的に(たとえば毎週)お使いのモニターやプリンターを調整します。
- ✔ 撮影した画像を保存するフォルダを、お使いのコンピュータ上に作成します。スタジオのニーズや作業手順に従って名前を付けます。

テスト画像の撮影と評価

作業を進めながら、画像をレビューし (25 ページ)、評価します。次の方法で、画像の評価を行うことができます。

- ✔ DCS Photo Desk または DCS Capture Studio を使用して、画像の閲覧、ヒストグラムや RGB データの確認などを行う。
- ✔ DCS 645 のさまざまな画像表示モード、ホワイトバランスツール (18 ページ) を使用する。

画像の撮影

DCS Capture Studio または DCS Camera Manager を使用して、次のことが行えます。

- ✔ 撮影した画像を入れるフォルダを、コンピュータ上で作成または選択します。
- ✔ JPEG 画像または TIFF 画像が必要な場合は、JPEG 画像または TIFF 画像を生成する設定を有効にします (93 ページ)。必要に応じて、画像フォーマット変換の設定 (94 ページ) を変更します。JPEG 画像や TIFF 画像を作成しても、DCR 画像を保存しておくことをお勧めします。DCR 画像をネガとみなしてください。

確認

DCS Camera Manager (27 ページ) と DCS Photo Desk (27 ページ) または DCS Capture Studio (26 ページ) が起動している間は、撮影された画像をコンピュータのモニターに表示することができます。

画像の編集

コダック プロフェッショナル DCS Capture Studio または DCS Photo Desk のヘルプをご参照ください。

付属ソフトウェアの概要

DCS 645 に付属しているソフトウェア CD には、数種類のソフトウェアが収録されています。本項では、各ソフトウェアに関して簡単な説明を記載しています。詳細については、各ソフトウェアのオンラインヘルプをご参照ください。

DCS 645 で撮影した画像は、.DCR 拡張子を持つ RAW データフォーマットで保存されます。この DCR 画像は付属のソフトウェアでのみ開くことができます。他の画像編集アプリケーションで DCS 645 で撮影した画像を開くには、付属のソフトウェアで DCR 画像を JPEG、TIFF 形式に変換してください。

付属のソフトウェアでは、画像の編集、色の管理、DCS 645 がコンピュータに接続されている場合の制御などが行えます。

☛ DCS 645 内部でも RAW データ (DCR 画像) から JPEG、TIFF 画像へ変換することができます。

コダック プロフェッショナル DCS Capture Studio (DCS Capture Studio)

プラットフォーム : Macintosh

DCS Capture Studio の機能

- ✔ ソフトウェア上からの画像撮影
- ✔ プロファイルの作成などの高度なカラーマネジメント
- ✔ IPTC データの作成
- ✔ 画像編集設定の保存、他の画像への設定の適用
- ✔ 作業情報の追跡
- ✔ カメラ設定の確認
- ✔ トリミングや回転
- ✔ シャープネス設定
- ✔ ノイズの除去

コダック プロフェッショナル DCS Camera Manager (DCS Camera Manager)

プラットフォーム : Windows、Macintosh

DCS 645 を Windows コンピュータに接続して使用する場合は、DCS Camera Manager を使用する必要があります (DCS Capture Studio は、Windows コンピュータでは動作しません)。Macintosh コンピュータに接続して使用する場合は、DCS Camera Manager または DCS Capture Studio を使用することができます。

Camera Manager の機能

- ✔ DCS 645 に装着された CF カード内フォルダの選択
- ✔ カメラからコンピュータへの画像のコピー
- ✔ ソフトウェア上からの画像撮影
- ✔ カメラのプロパティの表示や設定
- ✔ カメラに関する情報の表示、カメラの日時とコンピュータの日時との同期

コダック プロフェッショナル DCS Photo Desk (DCS Photo Desk)

プラットフォーム : Windows、Macintosh

DCS Photo Desk は DCS Camera Manager と連動させて使用することができます。

DCS Photo Desk の機能

- ✔ トリミングや回転
- ✔ カラーバランス調整
- ✔ シャープネス設定
- ✔ ノイズの除去
- ✔ カメラ設定の確認
- ✔ IPTC データの作成

コダック プロフェッショナル DCR File Format Module (DCR File Format Module)

プラットフォーム : Windows、Macintosh

DCR File Format Module は Adobe Photoshop のプラグインとしてインストールします。DCR File Format Module をインストールすると、DCR 画像を Adobe Photoshop で直接開くことができます。

DCS Photo Desk や DCS Capture Studio の機能を使用して画像を編集する必要がある場合は、それらのソフトウェアで画像を開き、編集作業を行ってから、ファイルを Adobe Photoshop で開きます。

付属ソフトウェアでの画像編集

DCS Capture Studio と DCS Photo Desk には、多くの画像編集ツールがあります。

どちらのソフトウェアも、さまざまなコダック プロフェッショナルのデジタルカメラで撮影された画像を扱えます。(詳細については、ソフトウェアのオンラインヘルプをご参照ください。)

本項では、DCS 645 の画像を扱う際に特に重要であると思われる画像編集ツールの説明を記載しています。最後に、Adobe Photoshop でのカラー設定についても説明してあります。

DCS Capture Studio

DCS Capture Studio には、色を調整するための多くの設定、ツールが用意されています。ここでは、デフォルト設定と DCS 645 の画像に最適であると考えられる設定について説明します。

DCS Capture Studio では、プロファイル設定を Edit メニューの Preferences で行い、画像編集ツールを Tools メニューから選択することできます。

プロファイルの設定

設定可能なプロファイルについて説明します。

Monitor Profile - モニタープロファイルを作成した場合は、作成したプロファイルを選択して Use system profile をチェックします。モニタープロファイルを作成していない場合は、デフォルトのプロファイルが使用されます。

Default Source Profile - DCS 645 によるデーライト光源下での撮影画像には、DCSPB Daylight Source Correction を選択することをお勧めします。このプロファイルはタングステン、蛍光灯下での画像にも有効です。

Default Look Profile - 彩度とコントラストが高く、鮮やかな仕上がりにするには Kodak Professional Product を選択し、彩度、コントラストを低く抑えた仕上がりを求める場合は Kodak Professional Portrait を選択します。

Default Destination Profile - ProPhoto RGB を選択することをお勧めします。

露出およびトーン調整 (Exposure & Tone) ツール

画像の品質を高めるために、このツールは非常に重要で、適切に使用することが必要です。

Neutral Reference - スポイトツールを使ってニュートラルグレーのポイントをクリックし、ホワイトバランスをとり画像の色カブリを取り除きます。

Profiles - 必要に応じて、Camera プロファイルと Look プロファイルを変更します。

Exposure - ヒストグラムで画像の濃度分布を確認します。

- ✔ ヒストグラム上の 2 本の赤い線を移動して、ハイライト部、シャドー部をどのような濃度で表現するかを調節します。ハイライト部は右側で調整され、シャドー部は左側で調整されます。
- ✔ Exposure Compensation スライダを移動して、撮影時の露出の過不足を補正します。

色調整 (Color Adjustment) ツール

色調整ツールでは、露出および濃度ツールでプロファイルにより調整した画像に若干の補正を加えることができます。

トーンカーブ、カラーバランスツール、彩度の調整ツールを使用して、若干の調整を行います。

編集 (Composition) ツール

編集ツールを使用して、トリミング、シャープネス、出力プロファイルの選択等の設定を行い、出力のために画像処理を行います。

ノイズ除去 (Noise Reduction) ツール

画像に発生するノイズを削減します。

Low - 最小のノイズ除去を行います。わずかにしかノイズがない画像、ノイズ除去によりディテールが失われやすい画像に使用します。

Medium - Low を適用しても改善されない画像に適用します。

Moiré - モアレを除去するためのノイズ除去ツールです。

DCS Photo Desk

DCS Photo Desk には、さまざまな画像編集ツールが用意されています。画像編集ツールは、Image (画像) メニューまたは Image Controls (画像コントロール) パネルからアクセスできます。詳細については、ソフトウェアのオンラインヘルプをご参照ください。

クリックホワイトバランス、露出補正、ライティング、ノイズ除去のためのツールがあります。

Adobe Photoshop でのカラー設定

DCS 645 画像を Adobe Photoshop(別売) で編集する場合、最適の RGB 色空間を定義できます。

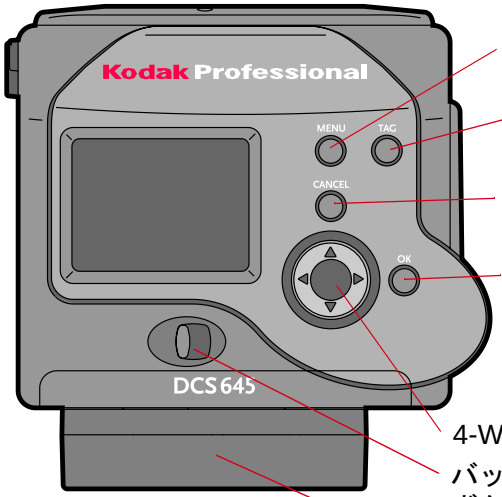
ProPhoto RGB は、DCS Photo Desk と DCS Capture Studio でのデフォルトの RGB 色空間です。

DCS Photo Desk または DCS Capture Studio のどちらかで編集した画像を Adobe Photoshop で開く場合は、Adobe Photoshop で同じ RGB 色空間を選択する必要があります。

Adobe Photoshop のカラー設定を使用して、RGB 色空間を設定します。

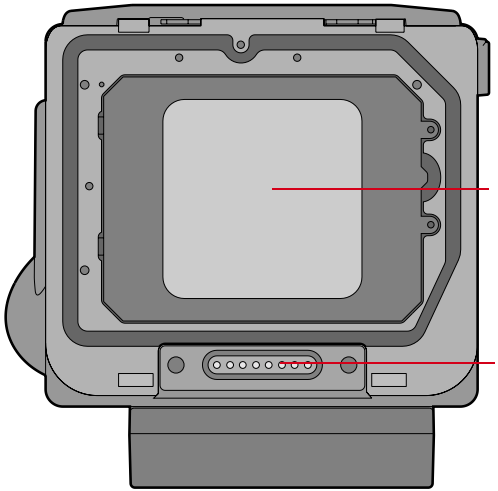
概要

背面



メニューボタン
タグボタン
キャンセルボタン
OK ボタン
4-Way スイッチ
バッテリー取外しボタン
DCS Pro Back 645 バッテリー

前面 (カメラ装着面)

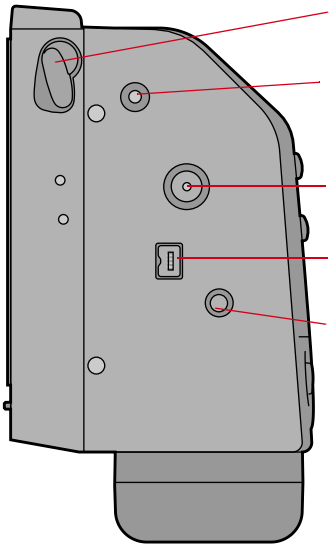


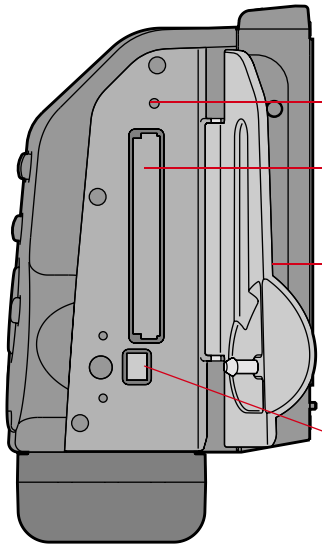
IR フィルターまたはアンチエイリアスフィルター *
デジタル信号インターフェース

* 適正なフォーカスを得るためには、IR フィルター (付属) かアンチエイリアスフィルター (別売) のどちらかを装着する必要があります。

DCS 645 について

側面





CCD

CCD は撮影時に取り込んだ光を電荷に変換します。
CCD の仕様は、以下のとおりです。

水平方向のピクセル数 :	4080
垂直方向のピクセル数 :	4080
総ピクセル数 :	16,646,400
水平方向の有効領域 (mm):	36.72
垂直方向の有効領域 (mm):	36.72

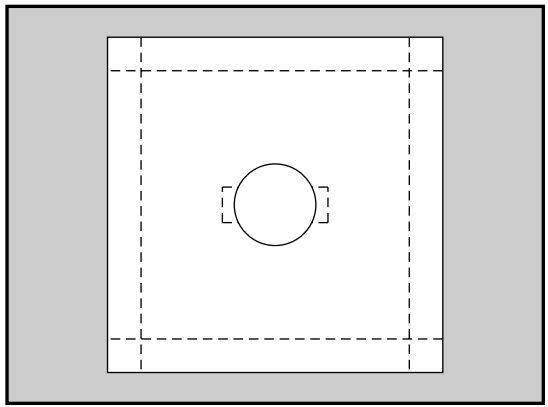
CCD は、IR フィルターまたはアンチエイリアスフィルターの後ろにあります (38 ページ)。

フォーカシングスクリーン

ファインダーの被写界は、DCS 645 の CCD よりも広くなっています。したがって、CCD に合わせた適切な撮影を行なうために、付属の DCS 645 フォーカシングスクリーンを取り付ける必要があります。

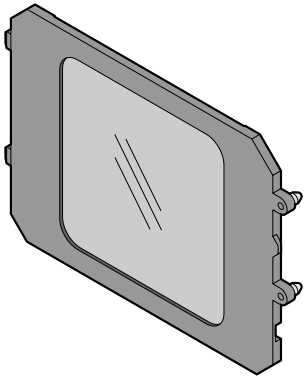
取り付けられているカメラのフォーカシングスクリーンを取り外し、付属の DCS 645 フォーカシングスクリーンを取り付けます。カメラ本体に付属のマニュアルに従って、フォーカシングスクリーンを交換してください。

DCS 645 フォーカシングスクリーンには、画像エリアに合わせたトリミングインジケータがあります。トリミングインジケータにより、選択した画像エリアに合わせた撮影が可能となります (83 ページ)。



IR フィルター

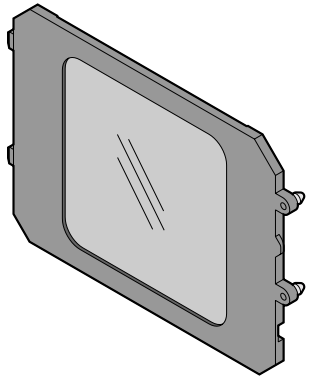
DCS 645 には着脱可能な IR フィルター (39 ページ) が付属しています。IR フィルターは CCD の前面に取り付けられ、不要な赤外線光をカットし、CCD のカバーガラスを保護します。



☛ 撮影時には IR フィルター(付属) かアンチエイリアスフィルター (別売) のどちらかを必ず装着してください。

アンチエイリアスフィルター

IR フィルターは取り外して、アンチエイリアスフィルターに交換することができます。アンチエイリアスフィルターは、IR フィルターの役目も果たし、かつ一定の焦点距離で発生する偽色やモアレを減らすことができます。

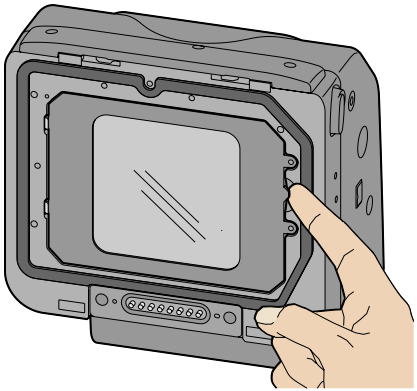


IR フィルター / アンチエイリアスフィルターの取り外し

注意 :

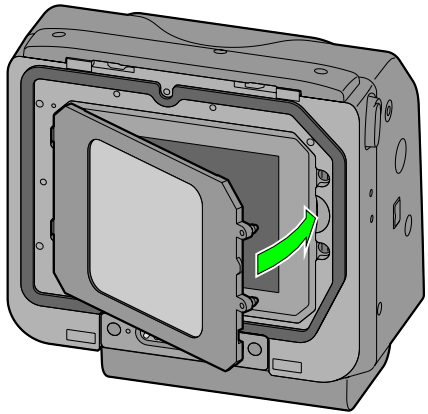
アンチエイリアスフィルターや IR フィルターは壊れやすいので、取り扱いには十分注意してください。

✔ フィルターの端の溝に爪をあてて、慎重にフィルターを取り外します。



フィルターの取り付け

1 フィルターの左側の 2 つのタブを DCS 645 のスロットに差し込みます。

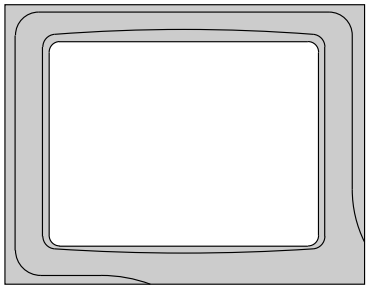


2 フィルター右側をそっと押し込みます。

☛ 使用していないフィルターは、付属のボディキャップのポケットに保管してください (110 ページ)。

液晶カラーモニター

DCS 645 の背面には 2 インチの液晶カラーモニターがあり、撮影画像を表示したり各種設定を変更することができます。



外部モニターで画像を見るとき (116 ページ)、液晶カラーモニターを表示することはできません (OK、キャンセル、メニューのいずれかのボタン (46 ページ) を押すと、外部モニターがオフになり、液晶カラーモニターがオンに切り替わります)。

液晶カラーモニターの機能

液晶カラーモニターでは、さまざまな表示モードで画像を表示できます。また液晶カラーモニター上のメニューバーから各種設定を行なうことができます。

表示モード (98 ページ): 液晶カラーモニターをオンにすると、最初にこのモードになります

メニューバー (42 ページ): 画像表示モードでメニューボタンを押してアクセスできます

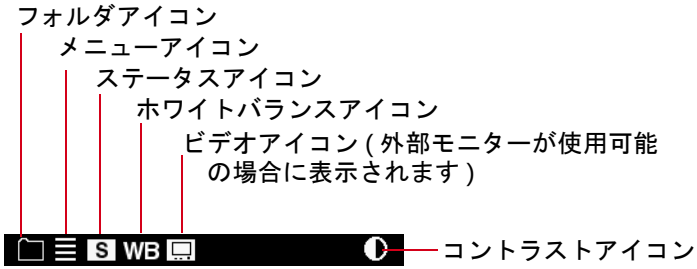
メニュー (43 ページ): メニューバーからアクセスできます

液晶カラーモニターのオン / オフ

1. OK ボタンを押すと、液晶カラーモニターがオンになります。
2. キャンセルボタンを押すと、液晶カラーモニターがオフになります。液晶カラーモニターが画像表示モードでない場合は、もう一度キャンセルボタンを押します。

メニューバー

メニューバーは、画像表示モード (98 ページ) を有効にした場合、表示されません。このときメニューバーを表示するには、メニューボタンを押します。メニューバーは、液晶カラーモニターの上部に表示され、さまざまな設定を行なうことができます。



メニューバーの表示方法と操作方法

1. 液晶カラーモニター (41 ページ) をオンにします。
2. メニューボタンを押して、メニューバーを表示させます。
3. 4-Way スイッチの左または右を押して、目的のメニューバーのアイコンを反転表示させます。
4. メニューボタンまたはキャンセルボタンを押して、メニューバーを消します。

メニュー

液晶カラーモニターのメニューから DCS 645 のさまざまな機能を設定することができます。

☞ メニューの項目によっては、モニター上で OK とキャンセルのいずれかを選択することにより設定を行なうものもあります (46 ページ) 。

メニューの選択

1 メニューバーを表示させて (42 ページ)、フォルダアイコンまたはメニューアイコンを反転表示させます。

該当するメニューが表示されます。

2 4-Way スイッチの上または下を押して、選択したい項目を反転表示させます。

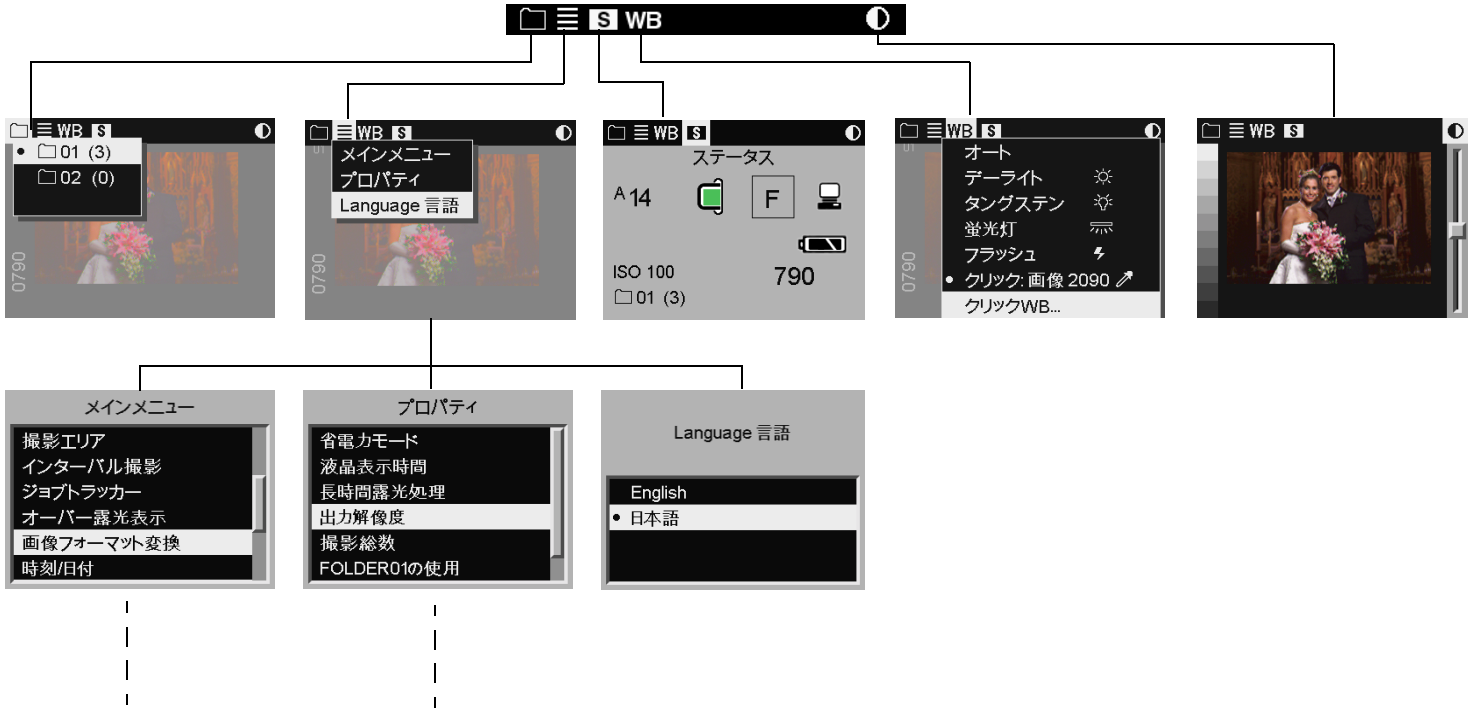
3 OK ボタンを押して、選択項目を有効にします。

選択した項目によっては、さらに次の画面が表示される場合があります。

4 それぞれの画面で、OK ボタン、キャンセルボタン、4-Way スイッチにより設定を行ないます (下図のように横方向に変更項目が表示される場合には、4-Way スイッチの左右いずれかを押して、変更する項目を反転表示させ、上下を押して変更を行います)。

DCS 645 について

メニューの階層構造



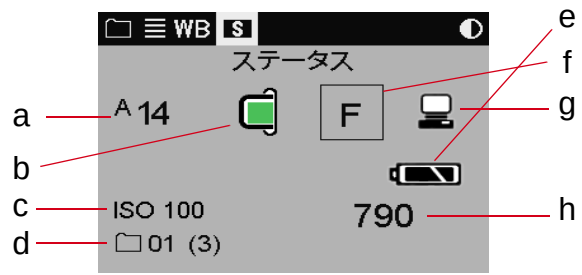
ステータス画面

ステータス画面には、現在の DCS 645 の設定が表示されます。

ステータス画面の表示

✔ ステータス画面を表示させるには、ステータスアイコン (42 ページ) を反転表示させます。

ステータス画面には次の情報が表示されます。



a - 装着されている CF カード (61 ページ) に記録可能な画像数

b - CF カードの使用状況 (緑部分がカードの空き容量を示します)

c - ISO の設定

d - 有効なフォルダ名とそのフォルダに入っている画像数

e - DCS 645 バッテリー残量

f - 現在の撮影エリア - フルフレーム、横位置、または縦位置 (83 ページ)

g - DCS 645 がコンピュータに接続されている場合に表示され (77 ページ)、DCS Capture Studio または DCS Camera Manager ソフトウェアが起動していない場合は点滅します

h - 現在選択されている画像の番号 (99 ページ)

ボタンの機能

4-Way スイッチやメニュー、OK、タグ、キャンセルの各ボタンを使って、DCS 645 の機能設定を行います。

4-Way スイッチ

左または右を押すと、液晶カラーモニター上で次の操作を行なうことができます。

- ✔ 画像の切り替え
- ✔ メニューバーの操作
- ✔ ズーム対象領域ボックスの移動 (ズーム表示モード時)

上または下を押すと、液晶カラーモニター上で次の操作を行なうことができます。

- ✔ 表示モードの変更
- ✔ ドロップダウンメニューの操作
- ✔ ズーム対象領域ボックスの移動 (ズーム表示モード時)

メニューボタン

- ✔ メニューバーのオフとオンの切り替え

OK ボタン

- ✔ 液晶カラーモニターの表示
- ✔ ズーム対象領域ボックスを有効にし (ズーム表示モード時)、ズーム対象領域ボックスがオンの場合でのズーム実行
- ✔ 反転表示させた項目の実行
- ✔ 表示されている画像の消去 (デリートモード時)

タグボタン

- ✔ 選択した画像へのタグ付け、またはタグの解除

キャンセルボタン

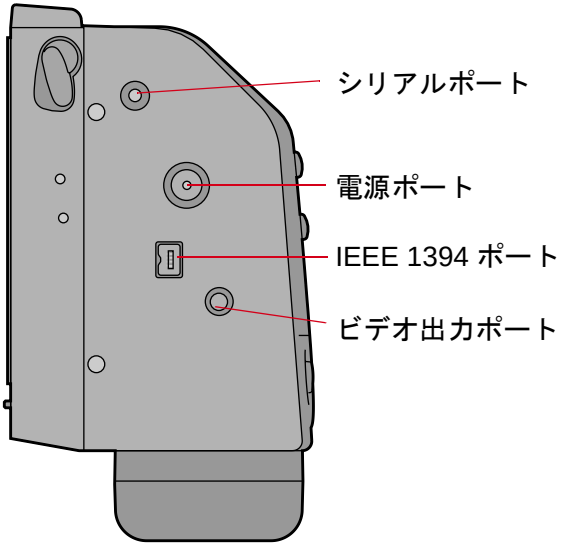
- ✔ 変更を適用しないでメニューを終了
- ✔ 液晶カラーモニターのオフ
- ✔ ズーム対象領域ボックスの取り消し (ズーム表示モード時)

液晶カラーモニターとボタン操作に関するクイックガイド

ボタンは、液晶カラーモニターの状態によって機能が変化します。

液晶カラーモニターの表示 :	OK ボタンを押します
反転表示させたメニュー項目を選択 :	OK ボタンを押します
ズーム対象領域ボックスを有効にする (ズーム表示モード時):	OK ボタンを押します
ズームを実行 (ズーム表示モード時):	OK ボタンを押します
画像の消去 (デリートモード時):	OK ボタンを押します
メニューバー表示のオンとオフの切り換え :	メニューボタンを押します
液晶カラーモニターをオフ :	キャンセルボタンを押します
変更を有効にしないでメニューを終了 :	キャンセルボタンを押します
ズーム対象領域ボックスを無効にする (ズーム表示モード時):	キャンセルボタンを押します
画像にタグを付けたり外したりする :	タグボタンを押します
画像の切り替え (ズーム表示モードで、ズーム対象領域ボックスが有効な場合を除く):	4-Way スイッチの左または右を押します
メニューバーでの項目選択 :	4-Way スイッチの左または右を押します
ドロップダウンメニューでの項目選択 :	4-Way スイッチの上または下を押します
画像表示モードの選択 :	4-Way スイッチの上または下を押します
ズーム対象領域ボックスを移動 (ズーム表示モード時):	4-Way スイッチのいずれかを押します

ポート



シリアルポート

工場でのメンテナンスのために使用します。このポートにはいかなるプラグも差し込まないでください。

電源ポート

付属の AC アダプターを接続します。

IEEE 1394 ポート

IEEE 1394 ケーブルをここに接続します。

ビデオ出力ポート

ビデオケーブルをここに接続すると、外部モニター(116 ページ) で画像を見ることができます。

はじめに

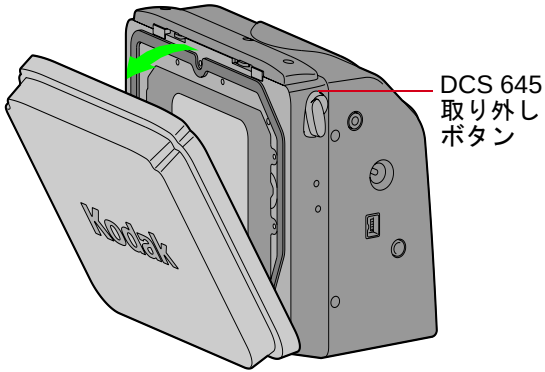
DCS 645 を用いた撮影を行なう前に、以下のことを行ってください。

1. お使いのコンピュータが DCS 645 の動作環境 (13 ページ) を満たしているかを確認します。
2. DCS 645 を対応のカメラ本体に取り付けます (50 ページ)。
3. 必要に応じて、次のケーブルを接続します。
   - ✔ IEEE 1394 ケーブル (77 ページ)
   - ✔ ビデオケーブル (116 ページ)

カメラ本体への取り付けとアクセサリの接続

カメラ本体への DCS 645 の取り付け

1 ボディキャップを取り外します。DCS 645 取り外しレバーを左へ回し押した状態で、キャップを上部から外します。



重要 :

IR フィルターやアンチエイリアスフィルターを触ったり、こすったりしないで下さい。またフィルターの面を下向きにして置かないでください。

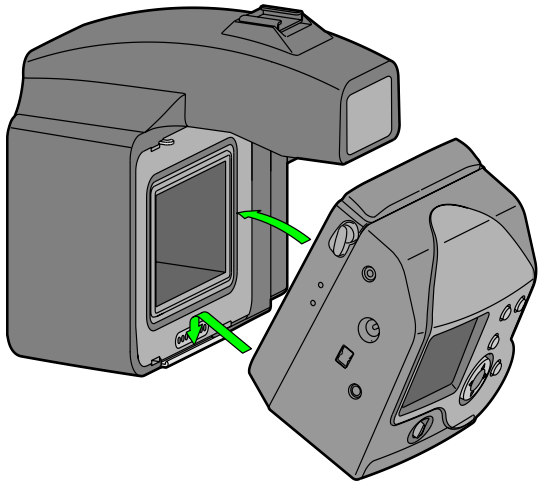
DCS 645 をカメラ本体に取り付ける前に、DCS 645 バッテリーを取り付けたり、AC アダプターを接続しないでください。

2 イソプロピルアルコールで湿らせたレンズ用クリーニングペーパーで、DCS 645 の接続部、またカメラ本体の接続ピンと取り付けフックを清掃します。

警告：

イソプロピルアルコールは引火性の液体です。またイソプロピルアルコールによって、目の炎症や皮膚の乾燥、さらに高濃度の気体を吸い込むと、眠気をもよおしたり、呼吸器の炎症が生じることがあります。使用後は必ず石ケンで手を洗ってください。取扱い方法や応急手当の詳しい情報は、製造元の製品安全データシートをご参照ください。

3 DCS 645 の下部の取り付けスロットに、カメラ本体の取り付けフックを入れ、カメラ本体へ DCS 645 の上部を押し付けるように取り付けます。



重要：

DCS 645 がしっかり取り付けられたことを確認してから、手を放してください。

カメラ本体からの DCS 645 の取り外し

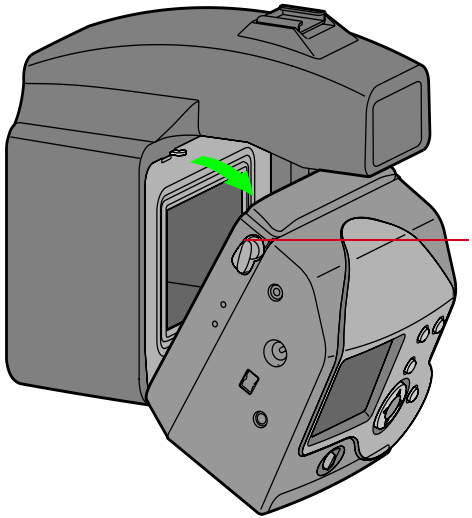
1 カメラをテーブルなど平らな場所に置きます。

2 DCS 645 がバッテリーで動作している場合は、バッテリーを取り外します。

DCS 645 の電源が AC アダプターで供給されている場合は、AC アダプターを取り外します。

3 IEEE 1394 ケーブル (77 ページ) が取り付けられている場合、取り外します。

4 DCS 645 取り外しレバーを左へ回した状態で押し込み、上部から DCS 645 を取り外します。



5 DCS 645 をカメラ本体から慎重に取り外します。

フラッシュ / ストロボの接続

フラッシュおよびストロボの接続に関しては、カメラ本体の取扱説明書をご参照ください。

画像ファイル形式

DCS 645 で撮影した画像は、.DCR 拡張子を持つ、コダック独自の Raw データフォーマットで保存されます。

同梱しているソフトウェアを使用して、DCR 画像を JPEG や TIFF などのフォーマットに変換することができます。撮影した画像ファイルをその他の画像編集アプリケーションで開いたり、印刷するためには、JPEG または TIFF に変換する必要があります。また、DCS 645 カメラの内部処理機能 (93 ページ) を使用して、DCR 画像を JPEG または TIFF に変換することもできます。

- ✔ DCS Capture Studio
- ✔ DCS Photo Desk
- ✔ DCR File Format Module (Adobe Photoshop 6.0 以降に対応したプラグインソフトウェア。Adobe Photoshop は同梱されていません。)

画像の保存

撮影した画像は、DCS 645 に挿入したコンパクトフラッシュカード (61 ページ) またはコンピュータのハードディスクに保存されます。

コンピュータへの画像の保存方法については、同梱の DCS Capture Studio、DCS Camera Manager、または DCS Photo Desk のオンラインヘルプをご参照ください。

画像をコンピュータのハードディスクに保存するには、コンピュータにカメラを接続し、DCS Capture Studio または DCS Camera Manager を起動させて、コンピュータに画像を保存する設定を行って下さい。

次のいずれかの場合には、画像は装着されているコンパクトフラッシュカードに保存されます。

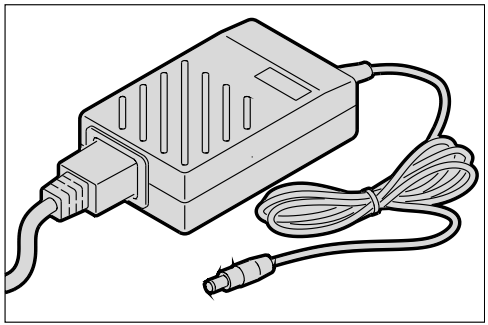
- ✔ カメラがポータブルモードで動作している
- ✔ カメラがコンピュータに接続されているが、コンピュータの電源が入っていない
- ✔ カメラが電源が入っているコンピュータに接続されているが、DCS Capture Studio ソフトウェアが動作していない
- ✔ カメラが DCS Camera Manager の動作しているコンピュータに接続されて、画像をカードに保存するように設定が行われている

電源

DCS 645 をコンピュータに接続して使う場合は、途中で電源がオフにならないように付属の AC アダプターを使用して電源供給を行ってください。DCS 645 をコンピュータに接続しないで使う場合は、DCS Pro Back 645 バッテリーまたは AC アダプターを使用してください。

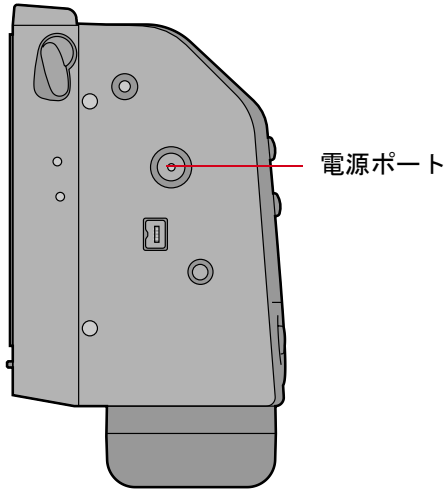
AC アダプター

DCS 645 には 8 VDC の AC アダプターが同梱されています。カメラにその他の AC アダプターを使用しないでください。



AC アダプターの接続

AC アダプターのケーブルを DCS 645 の電源ポートに差し込み、AC アダプターをコンセントに差し込みます。



バッテリー

DCS 645 には、バッテリーキットが付属しています。このキットは、DCS 645 バッテリー、バッテリーチャージャー、バッテリーチャージャー用の AC アダプターが含まれます。

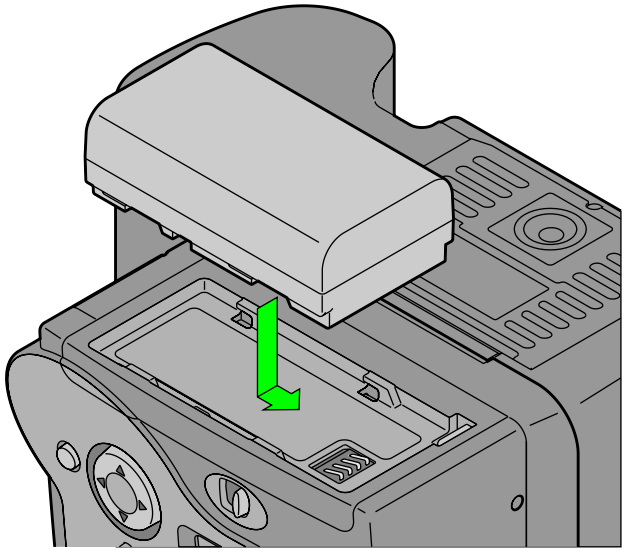
☞ バッテリーは最初に使用する前に充電を行う必要があります (60 ページ)。

警告：

バッテリーを火中に投入したり、分解しないでください。液漏れ、破裂、発火の原因となります。詳しくは、「使用上の注意」(120 ページ) をご参照ください。

バッテリーの取り付け

1 バッテリーの接点を DCS 645 の下部の接点に合わせます。
2 バッテリーが固定されるまで、バッテリーをスライドさせます。

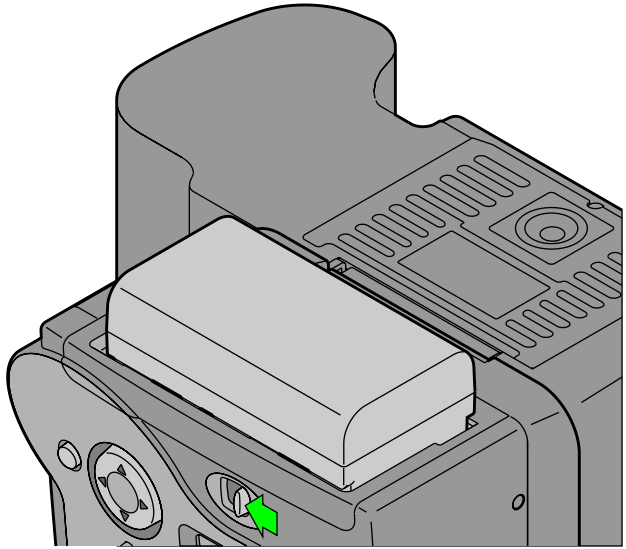


バッテリーの取り外し

注意：

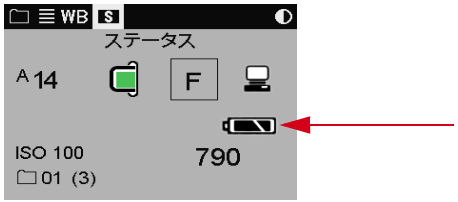
バッテリーを取り外すときには、バッテリーを落としたり破損させることがないようにバッテリーを片手で支えておくか、カメラを平らな場所に置いてください。

✔ バッテリー取り外しボタンを押して、バッテリーを取り外します。



バッテリー状態のチェック

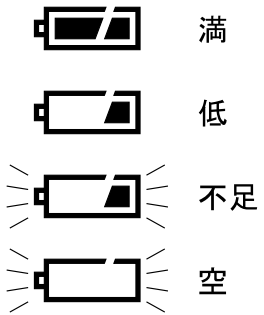
バッテリーの状態は、液晶カラーモニターのステータス画面のバッテリーアイコンで確認することができます。



次のような場合には必ずバッテリーの状態をチェックしてください。

- ✔ 新しいバッテリーを挿入した場合
- ✔ 長期間使用していなかった場合
- ✔ シャッターが切れない場合
- ✔ 寒冷下で使用する場合
- ✔ 重要な撮影の前

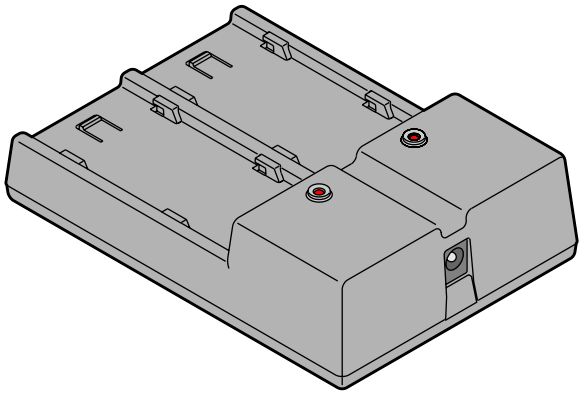
バッテリーアイコンの表示により、バッテリーの残量を確認することができます。バッテリーの充電残量が少量、またはない場合は、このアイコンが点滅します。



☞ AC アダプターにより電源を供給している場合は、バッテリーアイコンは表示されません。

バッテリーチャージャー

DCS645 にはバッテリーチャージャーが同梱されています。初めてバッテリーを使用する場合やバッテリーの充電残量が不足または空の場合には、このバッテリーチャージャーを使って充電してください。



バッテリーチャージャーは、次の温度下で保管し、使用してください。

保管温度 : -20ºC ～ 70 ºC (-68ºF ～ 140ºF)

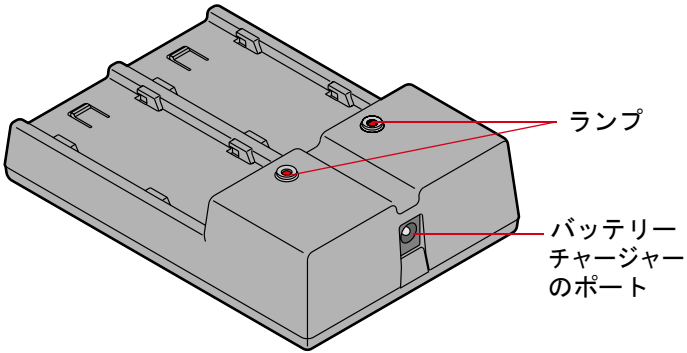
充電温度 : 0 ºC ～ 45 ºC (32 ºF ～ 113 ºF)

注意 :

DCS 645 バッテリーの充電には、専用のバッテリーチャージャーのみを使用してください。それ以外のバッテリーチャージャーを使用すると、バッテリーやチャージャーが破損することがあります。

バッテリーの充電

1 バッテリーチャージャーの AC アダプターのケーブルをバッテリーチャージャーに差し込みます。



2 同梱してある電源コードを使って、AC アダプターをコンセントに差し込みます。

3 バッテリーチャージャーのスロットに 1 個または 2 個のバッテリーを差し込みます。バッテリーを 1 個充電する場合は、どちらのスロットも使用できます。

通常、1 個のバッテリーを急速充電するには約 2 時間半かかります。2 個のバッテリーを挿入した場合は同時に充電されます。

次の表は、バッテリーチャージャーの状態に対応するランプの表示を示しています。

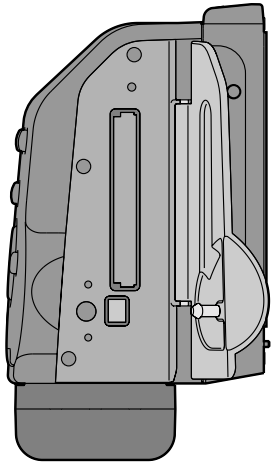
バッテリーチャージャーの状態	ランプの表示
充電待ち [1]	黄色の点滅
充電中	赤色
90% 充電完了	緑色の点滅
100% 充電完了	緑色
エラー [2]	赤色の点滅

[1] この時点では急速充電はできません。低速充電は可能な場合があります。

[2] 接続不良 (バッテリーパックをもう一度挿入してください)、バッテリーパック、チャージャーの不良。

コンパクトフラッシュ (CF) カード

DCS 645 には、IBM MicroDrive または Type II のコンパクトフラッシュカード用のスロットがあります。

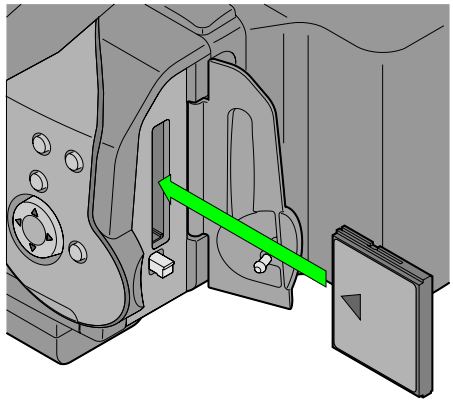


☛ カメラをコンピュータに接続し、DCS Capture Studio を起動した場合は、カードの有無に関係なく画像はコンピュータに保存されます。

CF カードの挿入

1 カードドアを開きます。

2 カードをスロットに挿入し、カードがすべて収まるまでしっかり押し込みます (カードは 1 方向にしか挿入できません)。



3 カードドアを閉じます。

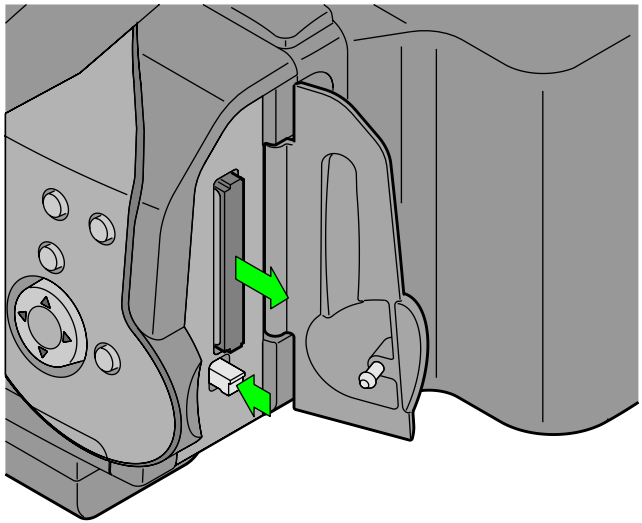
CF カードの取り出し

1 カードドアを開きます。

注意：

アクセスしている時には、カードビジーランプが点滅します。このビジーランプが点滅しているときは、カードを取り出さないでください。カード内に記憶されているすべての画像ファイルが破損する可能性があります。

2 カード取り出しボタンを押します。



3 CF カードを取り出します。

4 カードドアを閉じます。

フォルダの選択

DCS 645 上で、撮影画像を保存するカード内のフォルダの選択が可能です。ポータブルモードで作業する場合、またはコンピュータに接続し DCS Camera Manager でカードに画像を保存する設定を行って作業する場合にのみ、フォルダの選択を行うことができます。DCS Capture Studio が動作している場合は、画像はコンピュータのハードディスクに保存されます。コンピュータに画像を保存する場合は、DCS Capture Studio または DCS Camera Manager を使用してコンピュータ上のフォルダを選択します。

カードが挿入されていない場合は、メニューバーのフォルダアイコンに x が表示されます。

1 フォルダアイコンを反転表示します (42 ページ)。

2 4-Way スイッチの上または下を押して、フォルダを選択します。

有効なフォルダには、• マークが付きます。

3 OK ボタンを押し、反転表示したフォルダを有効にします。

CF カードの画像にアクセスする

画像を CF カードに保存した後、次のソフトウェアのいずれかがインストールされたコンピュータに画像をコピーする必要があります。

- ✔ DCS Capture Studio
- ✔ DCS Photo Desk
- ✔ DCR File Format Module(Photoshop のプラグインとしてインストール)

1. DCS 645 から CF カード (62 ページ) を取り出します。
2. コンピュータに PC カードスロットが備わっている場合、CF カードをアダプターに取り付けてからスロットに挿入します。PC カードスロットがない場合は、カードリーダーをコンピュータに取り付けて、CF カードを差し込みます。
3. コンピュータに DCS Capture Studio、DCS Photo Desk、または Adobe Photoshop のプラグインとして DCR File Format Module がインストールされている場合は、CF カードの画像にアクセスするか、画像をカードからコンピュータのハードディスクのフォルダにコピーしてからアクセスします。

   コンピュータに DCS Camera Manager がインストールされている場合は、接続された DCS 645 に入っているカードから画像ファイルを直接コンピュータのハードディスクにコピーすることができます。

CF カードのフォーマット

CF カードが正しくフォーマットされていない場合や、カード内のデータが破損した場合は、CF カードをフォーマットする必要があります。

CF カードを何回か撮影に使用した場合、カードの全容量を使用するためには DCS 645 でカードをフォーマットする必要があります (画像を削除しても、カード上のすべての領域を使用できるようになるわけではありません)。

カードのフォーマットには、クイックフォーマットとフルフォーマットの 2 通りの方法があります。

- ✔ クイックフォーマットは、ディレクトリ構造をフォーマットし直しますが、データを完全には消去しません。クイックフォーマット後には、画像の復元 (リカバリー) が可能です (66 ページ)。
- ✔ フルフォーマットは、すべての情報を消去し、カードを「クリーンアップ」します。画像の復元はできません。

☛ カードは、DOS フォーマットでフォーマットされます。

1. メニューアイコン (42 ページ) を反転表示させ、ドロップダウンメニューで Main Menu(メインメニュー) を選択します (43 ページ)。
2. Main Menu (メインメニュー) から Card (カードフォーマット) を選択します。
3. Card (カードフォーマット) メニューから Quick Format (クイックフォーマット) または Full Format (フルフォーマット) を選択します。
4. OK ボタンを押して選択したフォーマットを行います。

CF カードの画像の復元 (リカバリー機能)

カードのリカバリー機能を使用して、直前に削除した CF カードの画像を復元できます。画像を復元できる条件は、次の通りです。

- ✔ DCS 645 を使用してフォーマットしたカード
- ✔ DCS 645 で撮影した画像
- ✔ 上書きされていない画像

画像を復元すると、RECOVER という名前のフォルダがカード上に自動的に作成され、復元された画像がそこに保存されます。

☛ 撮影した画像を RECOVER フォルダに保存することはできません。RECOVER フォルダが選択されているときに画像を取り込むと、画像はプロパティ (72 ページ) で指定したデフォルトフォルダに保存されます。

重要 :

必要な画像を CF カード以外の場所に保存してから、フォーマットをしてください。

1. メニューアイコン (42 ページ) を反転表示させ、ドロップダウンメニューで Main Menu (メインメニュー) を選択します (43 ページ)。
2. Main Menu (メインメニュー) から Card (カードフォーマット) を選択します。
3. Card (カードフォーマット) メニューから Recover Card (画像のリカバリー) を選択します。

   上書きされていない画像は復元され、RECOVER フォルダに保存されます。

   復元中を示す画面が表示されます。リカバリーが完了すると、復元したファイル数を示す画面が表示されます。
4. OK ボタンを押します。

   画像の復元を行なった場合、次の撮影を行う前にカードをフォーマットしてください。
5. OK ボタンを押します。

言語の選択

液晶カラーモニターに表示するテキストの言語を選択できます。現時点では、英語か日本語を選択できます。

1 メニューアイコン (42 ページ) を反転表示させ、ドロップダウンメニューで Language(言語) を選択します (43 ページ)。

2 Language(言語) メニューから言語を選択します。

日付と時刻の設定

時刻 / 日付が記録されます。

DCS 645 内部では、電源が供給されなくても、内蔵のバッテリーで時計が動いています。内蔵バッテリーにより 14 日間まで日時を保持することができます。電源が入ると内蔵バッテリーが充電されます。このバッテリーが切れた場合は、日時を再設定する必要があります。

☛ 内蔵バッテリーを交換することはできません。

日時の設定方法

1. メニューアイコン (42 ページ) を反転表示させ、ドロップダウンメニューで Main Menu(メインメニュー) を選択します (43 ページ)。
2. Main Menu(メインメニュー) から Time/Date(時刻 / 日付) を選択します。
3. 4-Way スイッチの左または右を押して、変更したい数字を反転表示させます。
4. 4-Way スイッチの上または下を押して、反転表示させた数値の変更を行ないます。
5. 変更を保存する場合は OK ボタンを押します。変更を保存しない場合はキャンセルボタンを押します。

プロパティの設定

次のプロパティを変更できます。

- ✔ 省電力モードが開始するまでの時間(70ページ)
- ✔ 液晶カラーモニターの表示がオフになるまでの時間 (70 ページ)
- ✔ 長時間露光処理 (71 ページ)
- ✔ 撮影した画像を保存するデフォルトフォルダ (72 ページ)
- ✔ ビデオ出力方式 (73 ページ)

カメラの総撮影枚数 (72 ページ) も表示できます。

プロパティメニューの表示

メニューアイコン (42 ページ) を反転表示させ、ドロップダウンメニューで Properties(プロパティ) を選択します (43 ページ)。

Properties(プロパティ) メニューが表示されます。

省電力モードの設定

DCS 645 がバッテリーで動作しているときに、何も操作せずに指定した時間が経過すると、省電力モードになります。指定時間 (81 ページ) は、01:00:00 ～ 23:59:59(HH:MM:SS) までの範囲で設定することができます。

デフォルトでは、省電力モードの開始時間は 60 分になっています。

1. Properties(プロパティ) メニューを表示します (69 ページ)。
2. Properties(プロパティ) メニューで Battery Save Onset(省電力モード) を選択します。

   Battery Save Onset(省電力モード) 画面が表示されます。
3. 4-Way スイッチの左または右を押して、変更したい数字を反転表示させます。
4. 4-Way スイッチの上または下を押して、反転表示させた数値の変更を行います。
5. OK ボタンを押して変更を適用します。変更を適用したくない時はキャンセルボタンを押します。

液晶表示時間の設定

液晶カラーモニターは多くの電力を消費するため、モニターを使っているとバッテリーが速く消耗します。このため、液晶カラーモニターをオフにするまでの時間を設定することができます。

デフォルトの液晶表示時間は 60 秒に設定されています。

1. Properties(プロパティ) メニューを表示します (69 ページ)。
2. Properties(プロパティ) メニューから Display Off Time(液晶表示時間) を選択します。

3. 4-Way スイッチの左または右を押して、変更したい数字を反転表示させます。
4. 4-Way スイッチの上または下を押して、反転表示させた数値の変更を行います。
5. 変更を適用する場合は OK ボタンを押します。変更を適用しない場合はキャンセルボタンを押します。

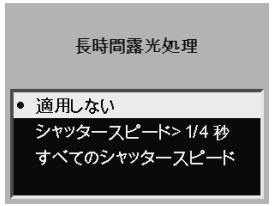
長時間露光

長時間露光設定を行うことにより、画像のパターンノイズを除去する処理が行われ、長時間露光が可能となります。

長時間露光処理は、画像の撮影直後に実行されます。その結果、連続撮影の機能が低下し、撮影間隔が長くなるとともに連続撮影可能枚数も少なくなります。長時間露光の設定を「Exposures>1/4sec(シャッタースピード >1/4 秒)」にして、1/4 秒より速いシャッタースピードで撮影した場合も連続撮影機能が低下します。

1 Properties(プロパティ) メニューを表示します (69 ページ)。

2 Long Exposure(長時間露光) を選択します。



3 次のいずれかを選択します。

Never Apply(適用しない) ー長時間露光処理を実行しません。

Exposures>1/4sec(シャッタースピード >1/4 秒) ー 1/4 秒を超えるシャッタースピードで撮影された画像に対して長時間露光処理を実行します。

All Exposures(すべてのシャッタースピード) ー シャッタースピードに無関係にどの画像に対しても撮影後、長時間露光処理を実行します。

撮影総数

DCS 645 で撮影された画像の総数を表示することができます。

1 Properties(プロパティ) メニューを表示します (69 ページ)。

2 Total Actuations(撮影総数) を選択します。

撮影総数が表示されます。

デフォルトフォルダの設定

CF カードを挿入したときに、画像を保存するデフォルトフォルダを設定することができます。

デフォルトフォルダとしてフォルダ 01、あるいは最小番号の空のフォルダのいずれかを指定することができます。

1 Properties(プロパティ) メニューを表示します (69 ページ)。

2 Use FOLDER01(FOLDER01 の使用) を選択します。

3 Yes または No を選択します。

Yes を選択すると、CF カードの挿入時にはフォルダ 01 が有効になります。

No を選択すると、CF カードの挿入時には最小の番号の空きフォルダが有効になります。

ビデオ出力方式の設定

外部モニターに画像を表示するときに使用するビデオ出力方式を指定できます (116 ページ)。

- ✔ NTSC - 日本と北米での規格(デフォルトとして設定されています)
- ✔ PAL - ヨーロッパとアジアでの規格

1. Propeties(プロパティ) メニューを表示します (69 ページ)。
2. Video Format(ビデオ出力方式) を選択します。
3. Video Format(ビデオ出力方式) 画面から NTSC または PAL を選択します。

ジョブトラッカー

DCS Photo Desk または DCS Capture Studio を使い入力したジョブトラッカーのデータを、CF カード経由でカメラに読み込ませることができます。カメラで読み込んだデータは撮影する画像のヘッダーに書き込むことができます。ジョブトラッカーのデータは、国際新聞通信委員会 (IPTC) の規格に準拠しています。ジョブトラッカーファイルの拡張子は .IPT です。

1 Main Menu (メインメニュー) から Job Tracker (ジョブトラッカー) を選択します。

2 Job Tracker Data(ジョブトラッカーデータ) メニューで、撮影画像に書き込むジョブトラッカーデータを選択します。すでにカメラ内に読み込まれているジョブトラッカーデータがあれば、そのファイル名が表示されます。

None (適用しない) - ジョブトラッカーデータを画像のヘッダーに書き込みません。

ジョブトラッカーファイル - あらかじめカメラに読み込んだジョブトラッカーデータが、これから撮影する画像のヘッダーに書き込まれます。左のサンプル画面では、Station1 というファイルがあらかじめ読み込まれています。

Load from Card (カードからの読み込み) - PC カードに保存してあるジョブトラッカーファイルを読み込みます。読み込むと、そのファイル名が表示されます。

☛ None (適用しない) またはジョブトラッカーファイルを一旦設定すると、再び設定を変更するまで保持されます。

CF カードからジョブトラッカーデータを読み込む

1 Job Tracker Data (ジョブトラッカーデータ) メニューから Load from Card (カードからの読み込み) を選択します。

2 Load Job Tracker Data (ジョブトラッカーデータの読み込み) メニューから目的のジョブトラッカーデータファイルを選択します。

ファイルが CF カードから DCS 645 に読み込まれます。

DCS 645 には同一の名称のファイルを複数保存しておくことはできません。すでに存在するファイル名を持つファイルを新たに DCS 645 に読み込もうとした場合、書き換えるかどうかの確認のメッセージが表示されます。

はじめに

コンピュータと接続して使用する場合、以下の手順で撮影を行ってください。

☛ コンピュータの電源をオフにする必要はありません。

1 カメラに DCS 645 を取り付けます (49 ページ)。

2 付属のソフトウェア (DCS Capture Studio、DCS Camera Manager、DCS Photo Desk) をインストールします (26 ページ)。

3 DCS 645 をコンピュータに接続し、電源を入れます (77 ページ)。

4 コンピュータの電源を入れます (すでに電源が入っている場合は不要です)。

5 DCS Capture Studio または DCS Camera Manager を起動します。

DCS Capture Studio が動作している場合は、画像はコンピュータに保存されます。DCS Camera Manager が動作している場合、設定により画像はコンピュータまたは CF カードに保存されます。

6 撮影します。

7 DCS Capture Studio、DCS Photo Desk、あるいは DCR File Format Module をプラグインとした Adobe Photoshop で画像の表示や編集をします。

8 画像を希望のファイル形式でコンピュータのハードディスクに保存します。

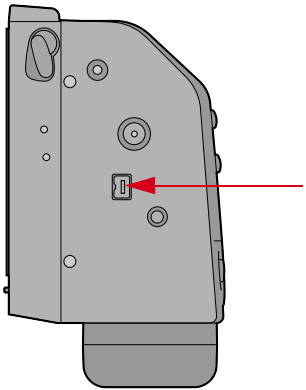
コンピュータへの接続

DCS 645 をコンピュータに接続する手順は以下の通りです。

コンピュータへの接続

同梱のアクセサリ以外に、IEEE 1394 ケーブルが必要です。

1 IEEE 1394 ケーブルの一端を DCS 645 の IEEE 1394 ポートに接続します。



2 ケーブルのもう一方の端子をコンピュータの IEEE 1394 ポートに接続します。

3 同梱の AC アダプターを使用する場合は、AC アダプターケーブルを DCS 645 の電源ポート (35 ページ) に接続し、AC アダプターをコンセントに差し込みます。

バッテリー電源を使用する場合は、バッテリーを取り付けます (56 ページ)。

電源を入れる

✔ DCS 645 の電源を入れます。

DCS 645 は、AC アダプターまたはバッテリーが電源の供給を開始してから 5 ～ 6 秒で起動します。

☞ 液晶カラーモニターをオンにした場合、液晶表示時間 (70 ページ) で指定した時間が経過すると、液晶カラーモニターは自動的にオフになります。

はじめに

カメラをポータブルモード (コンピュータと接続しない) で使用する場合の手順は以下の通りです。

1 カメラに DCS 645 を取り付けます (49 ページ)。

2 DCS 645 バッテリーを取り付けるか、AC アダプターを接続し、電源を供給します (80 ページ)。

3 CF カードを挿入します (61 ページ)。

4 DCS 645 の電源を入れます。

5 撮影します。

6 液晶カラーモニターを表示させて、画像を見ます (98 ページ) (またはビデオ出力を有効にして外部モニターで撮影画像を見ます (116 ページ))。

7 CF カードを DCS 645 から取り出し、カードリーダーに差し込みます。

8 画像をコンピュータのハードディスクにコピーします。

9 必要に応じて、DCS Capture Studio や DCS Photo Desk、あるいは DCR File Format Module をプラグインとした Adobe Photoshop で画像を表示したり編集を行います。

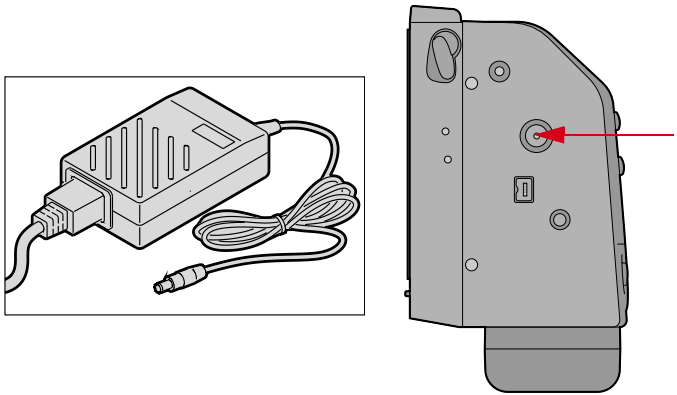
10 画像を希望のファイル形式でコンピュータのハードディスクに保存します。

電源の供給

ポータブルモードで作業する場合は、DCS 645 バッテリー、または専用の AC アダプター (55 ページ) のどちらかを使用して電源を供給します。

AC アダプターの利用

1 AC アダプターを DCS 645 の電源ポートに接続します。



2 AC アダプターをコンセントに差し込みます。

バッテリーについての注意

バッテリー電源を消耗させず長時間利用するために、次のことに注意してください。

- ✔ 古いバッテリーは、新しいバッテリーよりも寿命が短くなる傾向があります。
- ✔ 液晶カラーモニターの使用を最小限にとどめ、使用していない場合はオフにしてください。液晶カラーモニターは多くの電源を消費します。
- ✔ ステータス画面でバッテリーアイコンをチェックして、バッテリーの残量を確認します。

省電力モード

指定した一定時間以上 DCS 645 の操作部に触れない場合、バッテリーを節約するために DCS 645 は省電力モードになります。省電力モードでは、液晶カラーモニターがオフになり DCS 645 のボタンが効かなくなります。

デフォルトの省電力モードの開始時間は 60 分です。プロパティ (70 ページ) で省電力モードの開始時間を変更できます。

省電力モードの解除

✔ カメラ本体のシャッターボタンを押します。

DCS 645 は省電力モードになる前と同じ設定で起動します。

概要

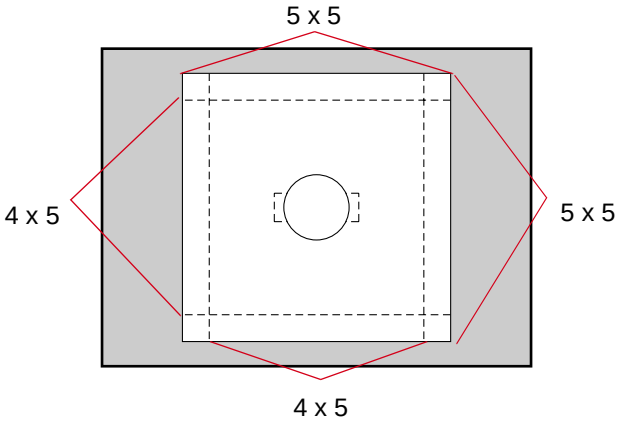
ここでは、DCS 645 の撮影、画像処理に関する設定について説明します。

カメラ本体のシャッターボタンを押して行います。カメラ本体の操作に関しては、CONTAX 645、マミヤ 645AF、またはマミヤ 645AFD のマニュアルを参照してください。

撮影エリア

DCS 645 は正方形の CCD を搭載しており、正方形の画像を撮影することができます。また必要に応じて、撮影エリアの変更も行なうことができます。撮影エリアを変更すると、それ以降に撮影される画像に適用されます。

同梱のフォーカシングスクリーン (37 ページ) には、各撮影エリア設定のおおよその撮影領域が表示されています。



撮影エリアの設定

1 Main Menu (メインメニュー) から Image Format (撮影エリア) を選択します。

2 Image Format (撮影エリア) メニューから希望の撮影エリア [Full Frame(フルフレーム)、Horizontal 5X4(横位置 5x4)、Vertical 4X5(縦位置 4x5)] を選択します。

現在の撮影エリアが、ステータス画面 (45 ページ) に表示されます。

F - フルフレーム (5 x 5)

H - 横位置 (5 x 4)

V - 縦位置 (4 x 5)

インターバル撮影

DCS 645 には、一定時間間隔で自動的に撮影することができるインターバル撮影機能が搭載されています。インターバル撮影を使うことで、花のつぼみが開花していく様子を撮影することや、無人撮影が可能となります。

インターバル撮影機能では、一定の時間が経過すると、指定枚数の撮影が完了していなくても、撮影が自動的に終了する場合があります。たとえば、1 秒間隔で 15 回露光するように設定した場合、数回の撮影後にカメラ内メモリが一杯になり、カメラは 1 秒間隔の撮影が行なえなくなります。15 秒経過すると、カメラは画像を 15 回撮影していなくても撮影を中止します。

☛ 撮影間隔が短すぎると、このようなことが起こります。インターバル撮影を行なっている間、カメラは省電力モードにはなりません。

1 Main Menu (メインメニュー) から Intervalometer(インターバル撮影) を選択します。

2 Intervalometer (インターバル撮影) メニューから変更したい項目を選択します。

3 選択した項目のパラメーターが表示されます (85 ページ)。

4 4-Way スイッチの左または右を押して、変更したい数字を反転表示させます。4-Way スイッチの上または下を押して、反転表示させた数値の変更を行ないます。

OK ボタンを押して変更を適用します (Enable(開始する) 画面で Yes を選択すると、インターバル撮影機能を開始します)。

インターバル撮影の設定画面

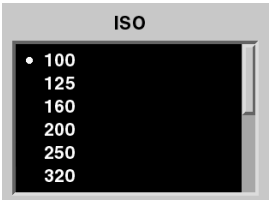
	Frame Count (撮影枚数)	Interval (撮影間隔)	Delay (待機時間)	Enable (開始する)
モニター表示				
詳細	撮影するコマ数を指定します	撮影の時間間隔を指定します	インターバル撮影を開始するまでの時間を指定します	Yes：インターバル撮影機能を開始します No：インターバル撮影を行いません
設定可能範囲	1 ～ 9999 コマ	3 秒から 23:59:59 (HH:MM:SS)	1 秒から 23:59:59 (HH:MM:SS)	
デフォルト設定	10 コマ	10 秒	1 秒	

ISO の設定

DCS 645 では、ISO を 1/3 ステップ間隔で 100 ～ 400 に設定することができます。デフォルト値は ISO 100 です。

ISO の設定により CCD の光に対する感度を決定します。ISO を大きくすると感度が高くなり、小さくすると感度が低くなります。

1 Main Menu (メインメニュー) から ISO を選択します。



2 ISO メニューから希望の ISO 値を選択します。

現在有効な ISO 値には、・の記号が横に付いています。

3 OK ボタンを押し、変更を有効にします。

ホワイトバランス

DCS 645 では、ホワイトバランスの調整をカメラ内の設定で行うことができます。

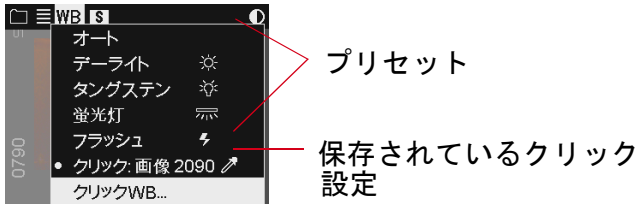
ホワイトバランスの設定には大きくわけて、プリセット (もともとカメラ内にある設定) とクリックホワイトバランス調整の 2 種類があります。プリセットには、オート、デーライト、タングステン、蛍光灯、フラッシュの 5 種類のホワイトバランスモードがあります。撮影時のライティングに合わせてモードを選択します。

たとえば、自然光で撮影する場合は、デーライトモードを選択すると高い色の再現性を実現します。

☛ オートホワイトバランスは、DCS 645 内で画像を評価し、光源を判別することで、カラーバランスと露出を調整します。

ホワイトバランスの設定

1 メニューバーのホワイトバランスアイコンを選択します。



2 ホワイトバランスメニューから、画像の撮影状況に合わせて、プリセット、カメラに最後に保存されたクリックホワイトバランス設定 (上図では画像 2613 のホワイトバランス設定)、または Click Balance(クリック WB) を選択します。

クリックホワイトバランス

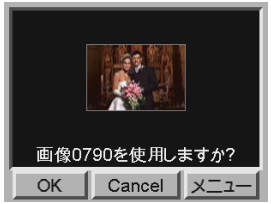
クリックホワイトバランス機能では、画像内の中間色の領域をクリックし、色のずれを補正します。クリックホワイトバランス設定は他の画像にも適用することができ、同一条件下で撮影された画像のホワイトバランスの調整が可能です。

クリックホワイトバランス設定を行う画像の選択

マクベスカラーチャート、グレーカードかホワイトカードを写し込んだ画像、または中間色の領域のある画像でクリックホワイトバランスの設定を行います。

クリックホワイトバランスの適用

1 ホワイトバランスメニューから Click Balance(クリック WB) を選択します。



2 現在選択されている画像を使用する場合は、OK ボタンを押します (他の画像でクリックホワイトバランスを行なう場合は、キャンセルボタンを押して、画像を選びなおして下さい)。

選択された画像が拡大されて、スポイトツールが表示されます。

3 4-Way スイッチを使って、スポイトツールを中間色の領域上に移動させます。

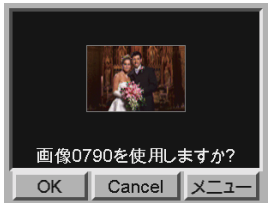
スポイトが画面の端に達すると、画像は 4-Way スイッチの操作とは逆方向へ移動します。

4 スポイトツールが中間色領域にあるときに、OK ボタンを押します。画像のホワイトバランスが補正され、クリックホワイトバランスメニュー上に画像番号を冠したクリックホワイトバランス設定が表示されます。

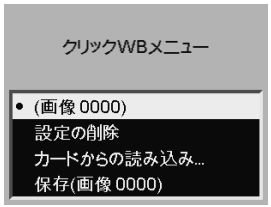
それ以降に撮影される画像には、この設定が適用されます。

クリックホワイトバランスメニュー

1 ホワイトバランスメニューから Click Balance (クリック WB) を選択します。



2 メニューボタンを押して、Click Balance Menu (クリック WB メニュー) を表示します。



3 Click Balance Menu (クリック WB メニュー) では次の設定を行なうことができます。

- ✔ クリックホワイトバランス設定を選択する
- ✔ クリックホワイトバランス設定を削除する
- ✔ CF カードからクリックホワイトバランス設定を読み込む
- ✔ クリックホワイトバランス設定を保存する

クリックホワイトバランス設定の選択

1 Click Balance Menu (クリック WB メニュー) から、画像に適用したいクリックホワイトバランス設定を選択します。

現在適用されているクリックホワイトバランス設定の横に・が表示されます。

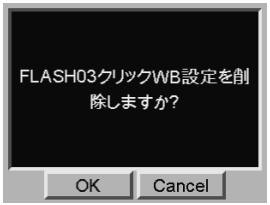
2 OK ボタンを押して、クリックホワイトバランス設定を有効にします。

クリックホワイトバランス設定の削除

1 Click Balance Menu (クリック WB メニュー) から Delete Setting(設定の削除) を選択します。

2 削除するクリックホワイトバランス設定を選択します。

3 OK ボタンを押します。



4 削除の確認画面が表示されるので、OK ボタンを押します。

クリックホワイトバランス設定の読み込み

DCS Photo Desk ソフトウェアを使用して作成したクリックホワイトバランス設定を、CF カード経由で DCS 645 に読み込むことができます (カメラのメモリには最大 10 個の設定を保存できます)。

1 Click Balance Menu(クリック WB メニュー) から Load from Card (カードからの読み込み) を選択します。

2 DCS 645 に読み込むクリックホワイトバランス設定を選択します。

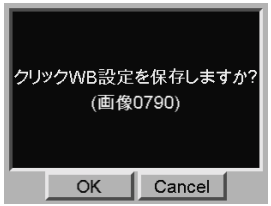
3 OK ボタンを押します。

読み込まれたファイルが Click Balance Menu (クリック WB メニュー) に表示されます。

クリックホワイトバランス設定の保存

現在の画像に対してクリックホワイトバランス操作を実行してから (89 ページ)、その設定を他の画像に適用するために保存することができます。

1 Click Balance Menu (クリック WB メニュー) から Save(Image ナンバー) (保存 (画像 ナンバー)) を選択します。



2 OK ボタンを押します。

カメラに最後に保存されたクリックホワイトバランス設定にかわって、新たに保存された設定により画像のホワイトバランスが調整されます。保存された設定がホワイトバランスメニューおよびクリック WB メニューに表示されます。

長時間露光

長時間露光設定 (71 ページ) を行うことにより、画像のパターンノイズを除去する処理が行われ、長時間露光が可能となります。

画像フォーマット変換

DCS 645 は内部処理により、さまざまなアプリケーションやブラウザで直接開くことのできる JPEG 画像や TIFF 画像を生成することができます。

生成するファイル形式は、JPEG Good(標準画質)、Better(高画質)、および Best(最高画質)、TIFF RGB から選ぶことができます。JPEG Best を選ぶと低圧縮の JPEG 画像が生成され、一方 JPEG Good では高圧縮された JPEG 画像が生成されます。圧縮率が小さいほど処理された画質は良くなりますが、ファイルサイズは大きくなります (ファイルサイズは内容によって変わります)。

画像フォーマット変換の設定が有効であるかどうかに関係なく、撮影された画像は一度 RAW データ (DCR 画像) で CF カードに書き込まれます。変換処理が有効である場合は、その後カメラが撮影などで使用中でないときに、画像が変換され保存されます。

JPEG 画像は JPEG フォルダに保存されます。TIFF 画像は TIFF フォルダに保存されます。これらのフォルダは、変換処理の設定を有効にすると (JPEG、TIFF 画像がなくても)、CF カードに作成されます。

撮影した画像を直接 JPEG 画像や TIFF 画像に取り込むことはできません。これらのフォルダを選択して保存しようとしても、画像はプロパティで設定したデフォルトフォルダに保存されます。JPEG 画像、TIFF 画像を生成する際に、元の DCR 画像を保存しておくか削除するかを設定することもできます。

1. Main Menu(メインメニュー) から Processing(画像フォーマット変換) を選択します。
2. Processing(画像フォーマット変換) メニューからオプションを選択します。

オプション	変換される画像
OFF (適用しない)	変換処理を行ないません。デフォルトではこの項目が選択されています。
Tagged Images (タグ付き画像)	カード内のタグ付き画像を変換。
Tagged in FOLDER (フォルダ内のタグ付き画像)	選択したフォルダー内のタグ付き画像を変換。
All in FOLDER (フォルダ内の全画像)	選択したフォルダ内のすべての画像を変換。
All on Card (カード内の全画像)	カード内のすべての画像を変換。
Change Settings (設定の変更)	画像フォーマット変換の設定を変更するための画面を表示します。

3 OK ボタンを押します。

画像フォーマット変換の設定変更

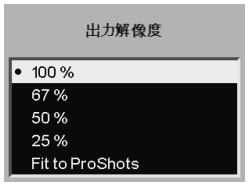
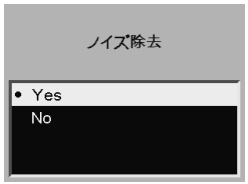
DCS 645 では、設定に従って画像を内部で変換することができます。

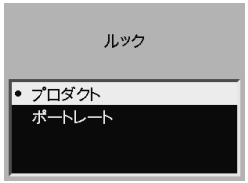
1 Processing(画像フォーマット変換) メニューから Change Settings(設定の変更) を選択します。

2 Processing Settings(フォーマット変換の設定) メニューから変更する設定を選択します。

選択した設定よっては、さらにメニューが表示されます。

変換処理の設定	モニター表示	設定 (下線付きがデフォルト)	詳細
Original DCR (DCR 画像)		Save (保存)	変換後も DCR 画像を保存します (デフォルト)。
		Delete (削除)	JPEG、TIFF 画像が生成した後に DCR 画像を削除します。 ☞ 元のDCR画像ファイルが確実に不要な場合以外は、選択しないこととをお勧めします。
File Type (画像フォーマット)		JPEG Best、Better、Good、TIFF RGB	選択したファイル形式の画像が生成されます。JPEG Best は、JPEG Better または Good よりもファイルサイズが大きく、画質優先の圧縮画像を生成します。いずれの場合も縦横比は変化しません。

変換処理の設定	モニター表示	設定 (下線付きがデフォルト)	詳細
Resolution (出力解像度)		100%	縦横比は変化しません。サイズは、変換前の画像のサイズと同じです。
		67%	縦横比は変化しません。サイズは 2/3 に縮小します。
		50%	縦横比は変化しません。サイズは 1/2 に縮小します。
		25%	縦横比は変化しません。サイズは 1/4 に縮小します。
		Fit to ProShots	ProShots の解像度に合わせます。
Noise Reduction(ノイズ除去)		Yes	画像のノイズを取り除きます。
		No	ノイズ除去が無効になります。

変換処理の設定	モニター表示	設定 (下線付きがデフォルト)	詳細
Look (ルック)		Portrait (ポートレート)	コントラストと彩度を低く抑えた色調で画像を表現します。
		Product (プロダクト)	画像に高いコントラスト、高い彩度を適用します。
Sharpening (シャープネス)		None (適用しない)	画像にシャープネスをかけません。
		High	画像を処理するときにシャープネスをかけます。High はシャープネスを最も強くかけ、Low はシャープネスをもっとも弱くかけます。
		Medium	
		Low	

画像のレビュー

CF カード (61 ページ) に保存されている画像を、５つの表示モードのいずれかで表示することができます。

- ✔ 1 コマ表示モード (100 ページ)
- ✔ ズーム表示モード (100 ページ)
- ✔ ヒストグラム表示モード (102 ページ)
- ✔ 4 コマ表示モード (103 ページ)
- ✔ デリートモード (104 ページ)

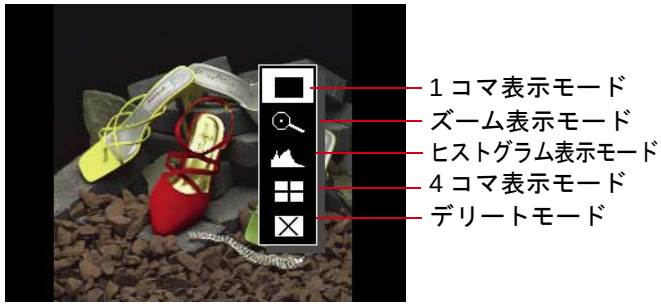
☛ 1 コマ表示モードと 4 コマ表示モードでは、画面の下にロケーションバー (105 ページ) が表示されます。

表示モードの選択

1 OK ボタンを押して、液晶カラーモニターの電源を入れます。メニューが表示されている場合は、キャンセルボタンまたはメニューボタンを押して表示モードに戻ります。

2 4-Way スイッチの上または下を押すと、表示モードが切り替わります。

各表示モードを示すアイコンがポップアップ表示され、有効な表示モードのアイコンが反転表示されます。



表示画像の切り替え

4-Way スイッチの左または右を押して、選択したフォルダ内の画像を順に表示することができます。

☛ この操作は、ズーム表示モードで (100 ページ) ズーム対象領域ボックスを有効にした場合を除いて、すべての表示モードで有効です。

右を押すとフォルダ内の番号が小さい画像から番号が大きい画像へ切り替わり、左を押すと逆の順序で切り替わります。

番号の大きい画像に切り替えていき最後の画像に達すると、次には最初の画像表示されます。番号の小さい画像に切り替えていき最初の画像に達すると、最後の画像に切り替わります。

フォルダ内の最初または最後の画像がわかるように、最後または最初の画像の後には何も表示されない画面が現れます。

画像の選択

4 コマ画像表示モードで画像を切り替える場合、1 つの画像だけが反転表示されます。目的の画像が反転表示されたら、4-Way スイッチを離します。

他の表示モードでも、目的の画像が表示されたら 4-Way スイッチを離します。

1 コマ表示モード

現在の画像のサムネイル画像が画面中央に表示され、ステータスバー (105 ページ) が画面左側に表示されます。

ズーム表示モード

現在の画像のサムネイルが、ズーム対象領域ボックスおよび十字ポインタ (101 ページ) とともに表示されます。ズーム対象領域ボックスは、ズームインしたときにズームアップされて表示される画像領域です。

ズーム対象領域ボックスのオン / オフ

OK ボタンを押すと、ズーム対象領域ボックスが有効になります。

ズーム対象領域ボックスが有効な場合は、パンおよびズームを行うことができます (101 ページ)。

キャンセルボタンを押すと、ズーム対象領域ボックスが無効になります。

ズーム対象領域ボックスが無効な場合、4-Way スイッチで別の画像に切り替えることができます (99 ページ)。

ズーム

ズームを行うには、ズーム対象領域ボックスを有効にした状態で (100 ページ)、OK ボタンを押します。

ズームには 3 つのレベルがあります。最初のボタン操作で 1:4(画像の 4 画素分を 1 画素で表示) にズームされ、次の操作で 1:1 にズームされ、3 回目の操作でズームが解除され 1:16 に戻ります。

☛ 1:1 にズームしたときは、十字ポインタは表示されますがズーム対象領域ボックスは表示されません。ただしパンは可能です。

パン

ズーム対象領域ボックスを有効にして、4-Way スイッチによりズーム対象領域ボックスを移動することができます。

ズーム表示モードでの画像の切り替え

キャンセルボタンを押してズーム対象領域ボックスを無効にし、4-Way スイッチにより別の画像に切り替えます (99 ページ)。

十字ポインタ

十字ポインタは、ズーム対象領域ボックスを有効にすると同時に表示されます。画面の右下に、十字ポインタの中心部分の輝度レベルが表示されます。輝度レベルは、絞り値 (-3 ～ 3.25) とパーセンテージ値 (2 ～ 180%) で表示されます。

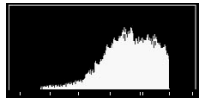
ヒストグラム表示モード

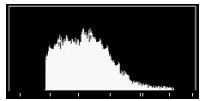
ヒストグラム表示モードでは、画像とヒストグラムが以下の情報とともに表示されます。

- ✔ 画像の名前
- ✔ 保存先のフォルダ番号 / 名前
- ✔ 撮影の日時
- ✔ ISO
- ✔ シャッタースピード
- ✔ 絞り値
- ✔ 露出モード
- ✔ 露出補正値

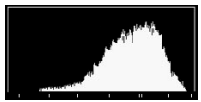
ヒストグラムの解釈

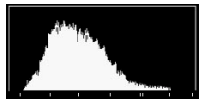
- ✔ 右側が切り取られたヒストグラムは、画像が露出オーバーであることを示します。左側が切り取られたヒストグラムは、画像が露出アンダーであることを示します。


露出オーバー


露出アンダー

- ✔ ヒストグラムの頂点が右側にある場合は、画像に暗い色調が少なく明るい色調が多いことを示します。頂点が左側にある場合は、明るい色調が少ない暗い色調の画像であることを示します。


ハイキー


ローキー

- ✔ ヒストグラムのアンダーラインの二重線の目盛りは、18% グレーの領域を示します。

4 コマ表示モード

4 つの画像サムネイルが表示され、画面の左にステータスバー (105 ページ) が表示されます。現在の選択されている画像は反転表示されます。

- 各サムネイルは指定した画像フォーマット (83 ページ) で表示されます。

デリートモード

デリートモードでは、選択されている画像を削除することができます。メインメニューの画像の削除では、複数の画像を一度に削除することもできます (106 ページ)。

- 誤って画像を削除した場合は、すぐに画像のリカバリーを行ってください (66 ページ)。

デリートモードでは、選択されている画像のサムネイルと削除のメッセージが表示されます。

画像の削除

1. 表示された画像を削除するときは、OK ボタンを押します。
2. 確認画面が表示され、OK ボタンを押すと画像が削除されます (キャンセルボタンを押すと、画像は削除されず確認画面が終了します)。

フィードバック画面が、2 秒間あるいは DCS 645 のボタンを操作するまで、表示されます。

ステータスバー

1 コマモードまたは 4 コマモードでは (98 ページ)、画像のサムネイルの左側にステータスバーが表示されます。ステータスバーには、次の情報が表示されます。

ロケーションバー

ロケーションバーは、1 コマ表示または 4 コマ表示モード (98 ページ) で画像を切り替えるときに、液晶カラーモニターの一番下に表示されます。ロケーションバーにより、現在表示されている画像のフォルダ内での位置が確認できます。

複数画像の削除

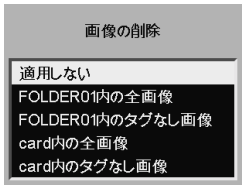
メインメニューの画像の削除で、複数の画像を一度に削除することができます。デリートモード (104 ページ) では、画像を見ながら１つずつ削除することができます。

複数画像を削除する手順

1 メニューアイコン (42 ページ) を反転表示させ、ドロップダウンメニューで Main Menu (メインメニュー) を選択します (43 ページ)。

2 Main Menu (メインメニュー) から Delete Images (画像の削除) を選択します。

3 Delete Images (画像の削除) メニューから削除したい画像のカテゴリーを選択します。



4 削除の確認画面が表示されたら、削除する場合は OK ボタンを、または削除しない場合はキャンセルボタンを押します。

OK ボタンを押すと、画像削除の進行状況が表示されます。削除中にキャンセルボタンを押すと、その時点で削除が停止し、まだ削除されていない画像がカード内に残ります。

削除された画像数が表示され、画像削除が終了します。

5 OK ボタンを押します。

コントラストの調整

液晶カラーモニターに表示されている画像のコントラストを調整することができます。

☛ コントラストの変更は、液晶カラーモニター上の表示にのみ有効で、保存されている画像自体には適用されません。

1 コントラストアイコンを反転表示します (42 ページ)。

2 4-Way スイッチの上を押してスライダーバーを上に移動させると明るくなります。4-Way スイッチの下を押してスライダーバーを下に移動させると暗くなります。

オーバー露光表示

1 コマ表示モードまたは 4 コマ表示モードでは、露出オーバーの部分をハイライト表示することができます。

1 1 コマ表示モードまたは 4 コマ表示モードを選択します (98 ページ)。

2 メニューアイコン (42 ページ) を反転表示させ、ドロップダウンメニューで Main Menu (メインメニュー) を選択します (43 ページ)。

3 Main Menu (メインメニュー) から Overexposure Indicator (オーバー露光表示) を選択します。

有効になっているほうに、・マークがつきます。

4 OK ボタンを押して、反転表示している項目を有効にします。

画像にタグを付ける

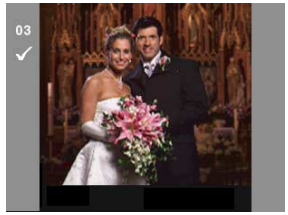
画像にタグをつけ、タグの付いた (またはタグの付いていない) 画像に対して、一括削除、変換処理などを行うことができます。また DCS Photo Desk でタグ付き画像を選択して、選択した画像に対してさまざまな操作を実行することもできます。

1 デリートモード以外の表示モードを選択します (98 ページ)。

2 タグを付ける画像を選択します (99 ページ)。

3 タグボタンを押します。

ステータスバーにチェックマークが表示されます。



タグが付いた画像のタグを外すには、タグ付きの画像を選択してもう一度タグボタンを押します。

クリーニング

カメラ本体については、カメラ本体のマニュアルに従って清掃してください。

DCS 645 のクリーニング

1 DCS 645 の電源を切ります。またコンピュータと接続している場合は、接続を外します。

2 ほこりが出ない布で、外側と液晶カラーモニターを拭きます。

重要：

液体クリーナーやエアゾールクリーナーは使用しないでください。

DCS 645 の下部の取り付けスロットとカメラ本体の取り付けフックを、イソプロピルアルコールで湿らせたレンズ用のほこりが出ないクリーニングペーパーで拭いた後、DCS 645 をカメラ本体に接続してください。

注意：

イソプロピルアルコールは引火性の液体です。またイソプロピルアルコールによって、目の炎症や皮膚の乾燥が生じることがあります。使用後は必ず石ケンで手を洗ってください。取扱い方法や応急手当の詳しい情報は、製造元の製品安全データシートをご参照ください。

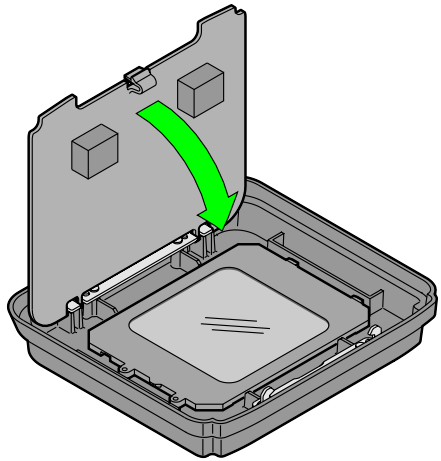
IR/ アンチエイリアスフィルターのクリーニング

1. DCS 645 からフィルターを取り外します (39 ページ)。
2. エアースプレー (低圧式) を吹きかけて、ほこりを静かに取り除きます。
3. CCD のクリーニング方法に関しては、取扱説明書 CD 内の「CCD のクリーニング」をご参照ください。

保管方法

DCS 645 は以下の点に注意して保管してください。カメラ本体の保管方法については、カメラ本体の取扱説明書をご参照ください。

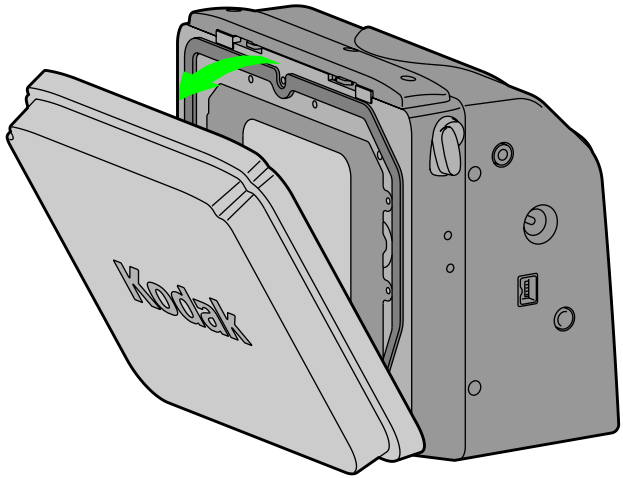
IR フィルターまたはアンチエイリアスフィルターは、使用していないときボディキャップのポケットに保管してください。



- ✔ DCS 645 をカメラから取り外したときは、IR フィルターまたはアンチエイリアスフィルター保護するために、ボディーキャップを取り付けてください。
- ✔ きれいで柔らかい布で包み、通気性のよいほこりのない冷暗所に置いてください。
- ✔ 直射日光を避け、車のトランクなど高温になるようなところには保管しないでください。
- ✔ 防虫剤などの化学薬品と一緒に保管することを避けてください。
- ✔ 湿度が極端に高い場合には、乾燥剤を使用してください。
- ✔ DCS 645 を長期間使用していなかった場合、細かく動作確認を行うか、サービス代理店で動作確認することをお勧めします。

☛ 数日間 DCS 645 を使用しない場合、日時の再設定が必要になる場合があります (67 ページ)。

- ✔ DCS 645 をカメラ本体から取り外したら、必ずボディキャップを取り付けてください。ボディキャップのフックを DCS 645 の下部のスロットに差込んだ後、ボディキャップ上部を取り付けてください。



ファームウェア

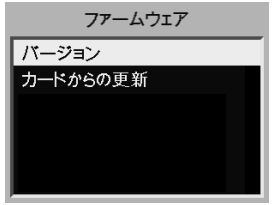
ファームウェアは DCS 645 内部で作動している、操作を制御するソフトウェアです。最新バージョンのファームウェアを、コダックのウェブサイトからダウンロードし、DCS 645 内のファームウェアを更新することができます。

ファームウェアバージョンの確認

DCS 645 で現在使用しているファームウェアのバージョンを確認することができます。

1 メニューアイコン (42 ページ) を反転表示させ、ドロップダウンメニューで Main Menu (メインメニュー) を選択します (43 ページ)。

2 Main Menu (メインメニュー) から Firmware (ファームウェア) を選択します。



3 Firmware (ファームウェア) メニューから Version (バージョン) を選択します。

ファームウェアのバージョンが表示されます。

4 OK ボタンを押し、画面を終了させます。

ファームウェアの更新

1 最新のファームウェアはコダックのウェブサイトからダウンロードすることができます。インターネットにアクセス可能なコンピュータからコダックのウェブサイト (www.kodak.com) にアクセスし、Service and Support を選択します。Support by Product のリストから Professional Digital Cameras を選択してから、DCS 645 を選択します。次に E メールアドレス、名前等を登録した上で、ダウンロードを行います。ダウンロードに関しては、取扱説明書 CD 内の「ソフトウェアのダウンロード」をご参照ください。

2 ファームウェアファイルをコンピュータにダウンロードします。

3 コンピュータのカードリーダーに CF カードを挿入します。

4 ファームウェアファイルを CF カードのルートディレクトリにコピーします。

重要 :

ファームウェアは CF カードのルートディレクトリからしか更新できません。

5 CF カード (61 ページ) を DCS 645 に差し込みます。

6 メニューアイコン (42 ページ) を反転表示させ、ドロップダウンメニューで Main Menu (メインメニュー) を選択します。(43 ページ)

7 Main Menu (メインメニュー) から Firmware (ファームウェア) を選択します。

8 Firmware (ファームウェア) メニューから Load from Card (カードからの更新) を選択します。

確認画面が表示されます。

9 OK ボタンを押してファームウェアの更新を行います。

ファームウェアの更新には、約 15 秒かかります。ファームウェアの更新が行われている間、処理中を示す画面が表示されます。

☛ ファームウェアが更新されると、カメラが自動的に再起動します。

リサイクル

廃棄方法、リサイクルに関しましては、関係機関またはお住まいの自治体にお問い合わせください。

仕様

型式	着脱可能なフィルムマガジンを持つ中判カメラに取り付けるデジタルカメラバック
CCD サイズ	1600 万画素 (4080 x 4080)
液晶カラーモニター	2 インチサイズの LCD(画像のサムネイル表示、コントラストの調整、ステータスの表示が可能)
IEEE 1394 インターフェース	DCS 645 から画像を DCS Capture Studio または DCS Camera Manager ソフトウェアが起動しているコンピュータへ転送
ポータブルモード時の電源	DCS 645 バッテリー
AC アダプター	8 VDC
重量	約 771g (CF カードとボディキャップ装着時)
大きさ	バッテリー装着時 :110 mm x 117 mm x 63.5 mm ボディのみ :110 mm x 93 mm x 63.5 mm
連写速度	1 コマ /1.8 秒
連写枚数	8 画像 (撮影対象や CF カードの種類により異なる)
内蔵 DRAM	256 MB
ISO	100 - 400
ビデオ出力形式	NTSC または PAL

外部モニターの使用

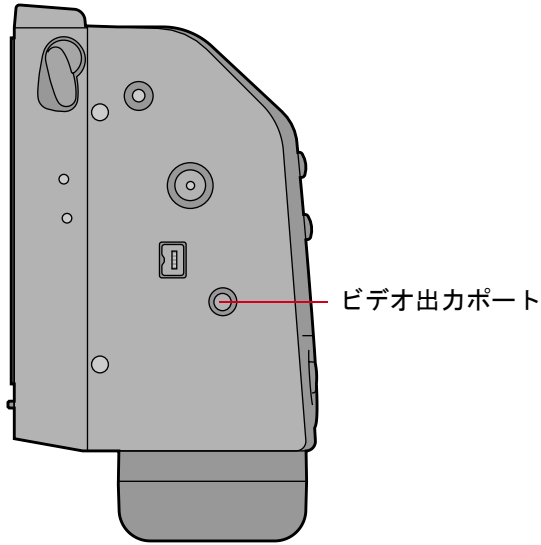
外部モニターを使って、液晶カラーモニターに表示される画像を拡大して見ることができます。

☛ 外部モニターで画像を見るとき、液晶カラーモニターを表示することはできません。

撮影した画像は接続された外部モニターに自動的に表示されます。画像の確認の他、カメラに必要な設定を行うことができます。

外部モニターとの接続

ビデオケーブル (別売) をビデオ出力ポートに接続します。



DCS645 での設定

1 メニューアイコン (42 ページ) を反転表示させ、ドロップダウンメニューで Main Menu (メインメニュー) を選択します (43 ページ)。

2 Main Menu (メインメニュー) から External Video (ビデオ出力) を選択します。

3 External Video (ビデオ出力) 画面から On (オン) を選択します。

メニューバーにビデオアイコンが表示されます。

4 ビデオアイコンを反転表示します。

5 OK ボタンを押します。

現在の画像が外部モニターに表示され、液晶カラーモニターがオフになります。

外部モニター表示の停止

OK、キャンセル、メニューのいずれかのボタンを押すと (46 ページ)、外部モニター表示が停止し、液晶カラーモニターが起動します。

画像の切り替え

4-Way スイッチの左または右を押すと、画像が切り替わります。

☛ この画像の切り替え操作は1コマ表示モードでのみ可能です (100 ページ)。

電波障害についての注意

Japan

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（ＶＣＣＩ）の基準に基づくクラスＡ情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

This is a Class A product based on the standard of the Voluntary Control Council for Interference by Information Technology Equipment (VCCI). If this equipment is used in a domestic environment, radio disturbance may arise. When such trouble occurs, the user may be required to take corrective action.

Taiwan

警告使用者:

這是甲類的資訊產品，在居住的環境中使用時，可能會造成射頻干擾，在這種情況下，使用者會被要求採取某些適當的對策。

European Union (EU)

Warning:

This is a class A product. In a domestic environment this product may cause radio interference in which case the user may be required to take adequate measures.

USA

NOTE: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

使用上の注意

警告

- ✔ 火災や感電を防止するために、推奨されているアクセサリやアタッチメント以外は使用しないでください。
- ✔ バッテリーを高温にさらしたり、火中に投入しないでください。また分解、ショートさせないでください。爆発したり、火災を引き起こす可能性があります。バッテリーのパッケージに記載されている注意事項を守ってください。バッテリーは、必ず子供の手の届かないところに置き、使い終えたらリサイクルのためにカメラ販売店に返却してください。

注意

- ✔ AC アダプターのラベルに表示されている定格電源を必ず守ってください。定格外の電圧を使用すると、AC アダプターや DCS 645 を破損する可能性があります。
- ✔ カードドア内のカードビジーランプが点滅している間は、CF カード、バッテリー、AC アダプターをカメラから抜かないでください。カードビジーランプ点滅中は、CF カードからのデータの読み込み、または CF カードへのデータの書き込みが行われており、カードを取り出したり電源供給を停止すると、カードが破損してデータが失われる場合があります。CF カードは損傷を受けやすいので、取り扱いには十分な注意を払ってください。CF カードを落とすと、カードが損傷してカードに記録されたデータが失われる可能性があります。

使用上の注意

- ✔ CCD の取り扱いには十分な注意を払ってください。破損された場合、非常に高額の交換費用がかかります。
- ✔ アンチエイリアスフィルターや IR フィルターに触れたり、叩いたり、フィルターの面を下向きにして置かないでください。
- ✔ 付属のケーブル、あるいは「システムの動作環境」に記載されているケーブル以外は使用しないでください (13 ページ)。
- ✔ DCS 645 の取り扱いには十分に注意してください。特にアンチエイリアスフィルターは非常に高価で破損しやすいので、取り扱いには最大限の注意を払ってください。
- ✔ カメラを 5 日間以上使用する予定がない場合には、カメラからバッテリーを取り外して保管してください。バッテリーを取り付けたままにすると、バッテリーの放電や液漏れが起こる可能性があります。
- ✔ 水に触れる可能性のあるところで DCS 645 を使用しないでください。DCS 645 は防水設計はされていません。

用語集

Camera Manager

DCS Camera Manager を参照

Capture Studio

DCS Capture Studio を参照

DCR File Format Module

Adobe Photoshop のプラグインとしてインストールする付属のソフトウェア。DCR File Format Module をインストールすると、DCR 画像を Adobe Photoshop で直接開くことができます。

DCR 画像

付属ソフトウェアの DCS Capture Studio または DCS Photo Desk でだけ開くことが可能な、DCS 645 で作成した画像ファイル

DCS Camera Manager

DCS Photo Desk と使用する付属のソフトウェア。画像の撮影、コピー、転送、DCS 645 のプロパティの設定を行うことができます。

DCS Capture Studio

DCS 645 からの画像の撮影および処理のための付属のソフトウェア (Macintosh 版のみ)

DCS Photo Desk

DCS 645 からの画像の表示や処理に使用する付属のソフトウェア

IEEE 1394 インターフェース

DCS 645 が DCS Capture Studio や DCS Camera Manager とやり取りし、DCS 645 から画像ファイルをコンピュータに転送するときに使用する高速シリアルインターフェース

IEEE 1394 ハブ

IEEE 1394 準拠の周辺機器をコンピュータに接続可能にする IEEE 1394 アクセサリ。DCS 645 とご使用になるためには、IEEE 1394 規格 (ホットプラグ対応、100/200/400Mbps のデータ送受信が可能) に準拠し、少なくとも 3 つのポートがあるハブを使用する必要があります。

用語集

IR フィルター

適切なフォーカスを保ち、不要な赤外線光をカットし、CCD のカバーガラスを保護します。

ISO

感光能力に関する国際標準化機構の規格

Photo Desk

DCS Photo Desk を参照

アンチエイリアスフィルター

一定の焦点距離で発生する偽色やモアレを減らします。

インターバル撮影

一定時間間隔で自動的に撮影を行います。

エイリアシング

元の撮影対象には存在しない、画像に現れる偽色やモアレ

液晶カラーモニター

画像の表示や DCS 645 の設定の変更を行うための 2 インチの液晶ディスプレイ

画像フォーマット

DCS 645 では、画像フォーマットとは撮影時に行う画像のトリミングのことです。5 x 5、4 x 5、5 x 4 から選択できます。

コンパクトフラッシュカード

(CF カード) DCS 645 で撮影した画像を保存するための、PCMCIA-ATA 規格準拠の小型の着脱可能なデバイス

フォーカシングスクリーン

カメラのフォーカシングスクリーンの替わりに使用する付属のスクリーン。このスクリーンは、DCS 645 で実際に撮影した対象の範囲を示します。

ポータブルモード

コンピュータに接続しないでカメラを使用すること

保証とアフターサービス

ご使用の前に、次の保証に関する項目と条件をよくお読みになってください。本機をご使用の場合は、記載されている項目と条件を承認されたものとみなされます。承認されない場合には、本機および同封製品を使用しない状態のまま梱包し、直ちに返却してください。

保証

コダックプロフェッショナル DCS プロバック 645

保証期間

お買い上げ日から一年間となります。

保証規定

製品保証の対象には、付属のソフトウェアは含まれません。保証期間中に取扱説明書等に従った正常な使用状態で故障した場合は、無償にて修理させていただきます。商品に保証書を添えてお買い上げの販売店またはコダック テクノ サービス (株)(tel: 03-5695-4945) に修理をご依頼ください。

保証は、上記のとおり商品の修理に限られ、商品の故障が原因で生じた間接的・付随的その他一切の損害等については、補償致しかねます。

次のような場合は、保証期間内であっても有償とさせていただきます。

- ✔ 保証書のご提示がない場合。
- ✔ 保証書にお買い上げ年月日、お客様名、お買い上げ販売店名の記載がない場合、及び保証書の字句が書き換えられている場合。
- ✔ ご使用方法の誤り、及び不適切な修理や改造による故障及び損傷。
- ✔ お買い上げ後の輸送、移動、落下、保管・手入れの不備による故障及び損傷。
- ✔ 火災、地震、風水害、落雷、その他天災地変、公害や異常電圧、指定外の電源 (電圧、周波数) による故障及び損傷。
- ✔ 故障の原因が本商品以外 (外部要因) による場合。

保証とアフターサービス

ご注意

保証書にお買い上げ年月日、お客様名、お買い上げ販売店名が記載されているかどうかご確認ください。記入がない場合は、直ちにお買い上げ販売店にお知らせください。保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。保証書は、日本国内においてのみ有効です。

お問い合わせ

その他、ご不明な点は、お買い上げの販売店、またはコダック (株) お客様相談センターにお問い合わせください。

〒 103-8540 東京都中央区日本橋小網町 6-1 山万ビル

コダック (株) お客様相談センター (tel: 03-5644-5040)

サービス

コダック社製品の正規取扱代理店までお問い合わせください。KODAK PROFESSIONAL DCS 645 を修理のために返送する場合には、購入時の梱包材をご使用になり、購入時と同じかたちで再梱包してくだい。元の梱包箱を廃棄または消失した場合には、ユーザーの責任において梱包を行うようにしてください。梱包が適切でないときの機器の損失、損害に対して、弊社はいかなる責任も負いません。

ウェブサイト

- 米国コダックウェブサイト (http://www.kodak.com) - ソフトウェアのダウンロードを行うことができます。常に最新のバージョンのソフトウェアがアップされています。
- コダックジャパンウェブサイト (http://www.kodak.co.jp) - 製品情報、サポート情報が掲載されています。
- Q-Link ウェブサイト (http://www.q-link.jp) - プロフォトグラファーのための会員制のウェブサイトです (会員でない方も一部のコンテンツを見ることができます)。コダックプロフェッショナルの製品情報、技術情報、FAQ などが掲載されています。また掲示板でのお客様同士の情報交換を行うことができます。

索引

数字

1 コマ表示モード 100
4-Way スイッチ 46
4 コマ表示モード 103

A

AC アダプター 55

C

CCD 36
CF カード 61
CF カードの画像にアクセスする 64
CF カードの挿入 61
CF カードの取り出し 62
CF カードのフォーマット 65
CF カードまたはフォルダの選択 63

D

DCR File Format Module 28
DCS 645
　カメラ本体への取り付け 50
　前面図 34
　側面図 35
　背面図 34
　保管方法 110
DCS 645 を保管する 110
DCS Camera Manager 27
DCS Capture Studio 26
DCS Photo Desk 27

I

IEEE 1394 インターフェース
　接続 77
IEEE 1394 ポート 48
IPTC データ 74
IR フィルター 38
　クリーニング 110
　保管方法 110
IR またはアンチエイリアスフィルターを保管する 110
ISO 86

O

OK ボタン 46

P

PC カード、「コンパクトフラッシュカード」を参照 61

あ

アンチエイリアスフィルター 38
　クリーニング 110

い

インターバル撮影 84
　設定画面 85

え

液晶カラーモニター 40
　オン / オフ 41
　ステータスバー 105
　メニューバー 42
液晶カラーモニターとボタン
　使用 47
液晶カラーモニター
　ロケーションバー 105
液晶表示時間 70

お

オーバー露光表示 107

か

外部モニター
　画像の表示 117
　起動 117
　接続 116
　停止 117
画像
　1 コマの削除 104
　表示 98
　フォーマット 83
　複数の削除 106
　保存 54
画像処理
　設定の変更 94
画像にタグを付ける 108
画像のコンピュータへの転送 20
画像フォーマット変換、「画像フォーマット変換」を参照 93

索引

画像の評価
コンピュータに接続されていない場合 18
コンピュータに接続する場合 24
画像の表示 98
画像の復元 66
画像の保存 54
画像ファイル形式 53
画像フォーマット変換 93
カメラ
準備 49
ファームウェア、「ファームウェア」を参照 112
カメラの準備 49
カメラ プロパティ、「プロパティ」を参照 69
カメラへの電源供給
コンピュータに接続されている場合 78
ポータブルモードで 80

き

キャンセルボタン 46
切り替え
画像表示モードで 99
ズームモードで 101

く

クリーニング 109
DCS 645 109
IR またはアンチエイリアスフィルター 110
クリックホワイトバランス
設定の削除 91
設定の選択 90
設定の保存 92
設定の読み込み 91
適用 89

け

警告と注意 120
言語、選択 67

こ

コントラスト、液晶カラーモニターでの変更 107
コントラストの調整 107

コンパクトフラッシュカード 61
挿入 61
取り出し 62
の画像にアクセスする 64
フォーマット 65
コンピュータへの接続 77

さ

削除
複数画像 106
削除 :1 コマ 104
撮影エリア 83
撮影総数 72
撮影ソフトウェア 23

し

準備
コンピュータに接続されていない場合の周辺機器とメディア 17
コンピュータに接続する場合の周辺機器とメディア 24
仕様 115
省電力モード 70, 81
ジョブトラッカー 74
ジョブトラッカーデータ、カードからの読み込み 75

す

ズーム 101
ズームモード 100
画像の切り替え 101
ステータス画面 45
ステータスバー 105

せ

接続
AC アダプター 80
カメラ本体への DCS 645 の 50
カメラをコンピュータと電源へ 77

そ

ソフトウェア
DCR File Format Module 28
DCS Camera Manager 27
DCS Capture Studio 26

DCS Photo Desk 27
画像の編集 21
付属ソフトウェアでの画像編集 29
ソフトウェア CD 26

た

タグボタン 46

て

デフォルトフォルダーとしてのフォルダー 01 72
デリートモード 104
電波障害についての注意 118

と

動作環境 13
特徴 12
ドロップダウンメニュー 43

は

はじめに 11
バッテリー 56, 57
充電 60
状態のチェック 58
節約 80
取り付け 56
取り外し 57
バッテリーチャージャー 59
パン 101
パン / ズーム モード
ズーム 101
ズーム対象領域ボックスのオン / オフ 100
パン 101

ひ

ヒストグラム表示モード 102
日付と時刻 68
ビデオ出力 116
起動 / 停止 117
接続 116
ビデオ出力方式の設定 73
表示モード 98
1 コマ 100
4 コマ 103

切り替え 99
選択 98
パン / ズーム モードズーム表示モード 100
ヒストグラム 102

ふ

ファームウェア 112
更新 113
バージョンの確認 112
ファイル、「画像ファイル」を参照 53
フィルター
IR 38
アンチエイリアス 38
フォーカシングスクリーン 37
付属ソフトウェア 26
付属ソフトウェアでの画像編集 29
Adobe Photoshop でのカラー設定 33
DCS Capture Studio 30
DCS Photo Desk 32
付属のソフトウエアでの画像の編集 21
プロパティ 69
撮影総数 72
デフォルトフォルダの設定 72
ビデオ出力方式 73
液晶表示時間 70
省電力モード 70
プロパティメニュー
表示 69

ほ

ポータブルモード 79
ポートとジャック 48
IEEE 1394 48
ボタン 46
4-Way スイッチ 46
OK 46
キャンセル 46
タグ 46
メニュー 46
ボタンと液晶カラーモニター
使用 47
ボタンの機能、「ボタン」を参照 46
ホワイトバランス 87
[Click Balance]、「クリックホワイトバランス」を参照 88

め

メニュー 43
メニューバー 42
　切り替え 42
　表示 42
メニューボタン 46

り

リサイクル 114

ろ

ロケーションバー 105

わ

ワークフロー 15
　カメラをコンピュータに接続して撮影する場合 22
　カメラをコンピュータに接続せずに撮影する場合 16

EASTMAN KODAK COMPANY
Kodak Professional Division
Rochester, New York 14650
www.kodak.com/go/professional
© Eastman Kodak Company, 2002.
TM: Kodak, Kodak Professional
P/N 4E6141